

テンリュウヌリトラノオ *Asplenium shimurae* (H. Itô) Nakaike

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更コード 1, 18

チャセンシダ科 Aspleniaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

小～中型の常緑性シダ。ヌリトラノオに似るが葉が細長く、無性芽は中軸の途中に付き、先端にもつける。

以前はヌリトラノオの変種として扱われていたが、最近の研究で独立種として扱われている。旧佐久間町が基準産地である。

2. 分布

国外では中国、ネパール、ブータン、ハワイ、アフリカに、国内では本州 (福井県・静岡県・紀伊半島)、四国、九州 (熊本県・宮崎県) に分布する。県内では西部 (天竜川中流域) に分布する。

3. 生育環境

暖帯上部の陰湿な谷間の崖地。本種はヌリトラノオ類の中では最も陰湿な場所に生育する。

4. 生育状況

浜松市天竜区に生育する。産地は限られて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

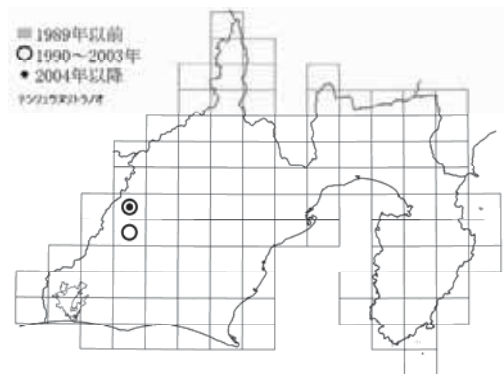
山林伐採 (11) や林道工事 (24) などによる生育地の消失、生育環境の悪化 (71) で個体数が減少する危険性が高い。

6. 保護対策

生育地の森林保護が必要である。 (内藤宇佐彦)



浜松市 2017年2月18日 内藤宇佐彦



ジュンサイ *Brasenia schreberi* J. F. Gmel.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ジュンサイ科 Cabombaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

浮葉性の多年草。茎、葉柄、葉裏は粘液物質に覆われる。葉は楕円形で長径5～10 cm、水面に浮かび、根茎から伸びた長い葉柄が盾状につく。花期は6～8月。花は水面上に開き紫褐色で径2 cm。雌性先熟で1日目は雌性期で2日目は雄性期である。近似種はないが、ヒメシロアサザの葉は湾入して、葉柄は盾状につかない。

2. 分布

国外では北アメリカ、東・南アジア、西アフリカに、国内では北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部と伊豆に分布する。

3. 生育環境

低地の日当たりがよく、水底に有機物が堆積していて、水質がやや酸性の池に生育する。

4. 生育状況

産地は伊豆と西部に点在する。産量はやや多い。趣向のある山菜であるが、生育の脅威となるほどには採取はされていない。

5. 減少の主要因と脅威

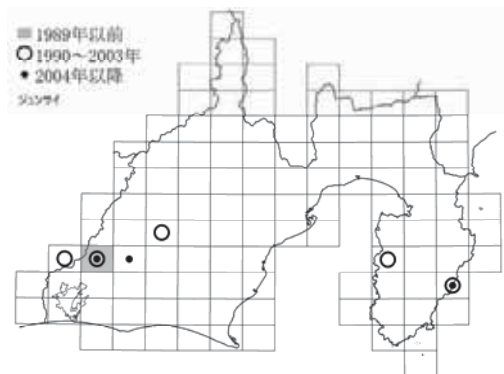
池の法面崩壊 (71) や農薬汚染 (32) が脅威である。

6. 保護対策

池の保存と減農薬に努める。 (宮崎一夫)



浜松市 2015年6月20日 内藤宇佐彦



オトメアオイ *Asarum savatieri* Franch.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ウマノズクサ科 Aristolochiaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

常緑多年草。葉身は卵形または楕円形。長さ6~12 cm。幅5~9 cm。基部は心形。表面は光沢なく毛を散生する。花期は6~8月。萼筒は丸みを帯びた筒形。上部で少しくびれる。喉部に口環がある。萼筒内部の縦皺は12~18本、網目状になる。花は年を越し翌年の5~6月に結実する。花と普通葉は一年おきに交代して形成される特徴がある。

2. 分布

日本固有種で、本州 (神奈川県、静岡県) に分布する。県内では伊豆と東部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯の樹林下に生育する。

4. 生育状況

スギやヒノキの植林地が放置され、林床が暗くなり生育環境が悪化している。また、シカによる食害で、個体数の減少とともに、葉も小さくなり開花個体も減少している。

5. 減少の主要因と脅威

植林地の管理放棄 (53) とシカによる食害 (52-1)、園芸用採取 (41) が減少の主要因である。

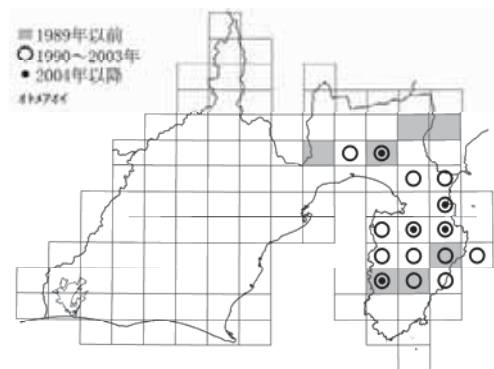
6. 保護対策

植林地の除間伐を行うことと、シカによる食害を防ぐための柵を設置すること。

(湯浅保雄)



長泉町 2013年8月24日 内藤宇佐彦



エビアマモ *Phyllospadix japonicus* Makino

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

アマモ科 Zosteraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

沈水性の多年草。根茎も節間も短く、節から多数の根を出し、密生する根毛により岩に固着する。葉は線形で長さ20~100 cm、幅1~3 mm、乾くと黒変する。春株から短い花柄を出し、3~4 cmほどの総苞内に肉穂花序を作る。雌雄異株。雄株の花序は雄蕊が互生に2列に並ぶ。雌株の花序は雌蕊と仮雄蕊が縦に交互に並ぶ列が2列できる。

2. 分布

日本固有種で、本州中部以西と九州北部に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

波のあらい深さ1~6 mの岩礁上に生育する。

4. 生育状況

産地は限られている。海岸の開発や整備で生育地が減少した可能性がある。

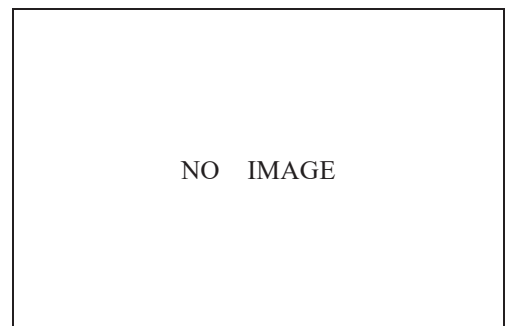
5. 減少の主要因と脅威

海岸の整備 (14) による生育地の減少が主要因であろうが、海中に生育するため調査不足による確認数の減少も十分にあり得る。

6. 保護対策

海岸の整備や開発を計画したら、事前に調査を行い、生育が確認されたら保護策を立てること。

(湯浅保雄)



コアマモ *Zostera japonica* Asch. et Graebn.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

アマモ科 Zosteraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

沈水性の多年草。根茎は細く直径0.5~1.5 mmで横に這い、節から根と、葉だけをつける枝と、花序をつける枝とを出す。葉は長さ10~40 cm、幅1~2 mm。花期は気候や水面の季節的变化によって異なる。花茎は直立し、花序は1.5~2.5 cmで葉鞘に包まれている。種子は心皮内に1個で、種皮は褐色で硬く平滑である。

2. 分布

国外では東アジア (ロシア極東部、サハリン、中国、朝鮮半島、ベトナム北部) に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

水深1 m以下の内海や河口。海水や汽水の砂・砂泥地。

4. 生育状況

沼津市・御前崎市・浜名湖に生育するが、前回 (2004年) の調査、今回の調査とも浜名湖でしか確認されなかった。ただし、調査不足もあると思われる。

5. 減少の主要因と脅威

海底、湖底の環境変化と水質汚染 (31) が減少の主要因であると考えられる。

6. 保護対策

水質の汚染、汚濁を防ぐ対策を講じること。

(湯浅保雄)



浜松市 2017年11月14日 花井孝之



シラン *Bletilla striata* (Thunb.) Rchb. f. var. *striata*

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~70 cm。根茎は肥厚し横臥する。葉は数個が互生し披針形で、縦に皺があり長さ20~30 cm。花期は4~5月。花は紫紅色ときに白色で3~7個つける。萼片と側花弁は狭長楕円形で長さ2.5~3 cm。唇弁は先が3裂して、中裂片は円形で縦の皺が5個ある。距はない。近似種のエビネは葉が長楕円形である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州 (福島県以西)、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の丘陵地で日当りのよい湿った草地に生育する。園芸栽培もされる。

4. 生育状況

産地は特に西部に多い。産量が多い。園芸採取の影響も少なく生育は良好である。逸出か自生か判断が困難な生育地もある。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) が主要因である。

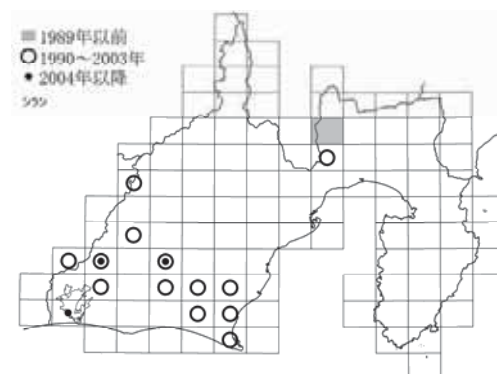
6. 保護対策

植生遷移を抑制するなど、環境に応じて善処することが重要である。

(宮崎一夫)



浜松市 2014年5月3日 宮崎一夫



マメツタラン *Bulbophyllum drymoglossum* Maxim. ex Okubo

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

常緑多年草。樹木などに着生する。茎は糸状で硬く、横に伸びてところどころから根を出す。葉は下部に肥厚した部分がなく、多肉な革質の卵円形。長さ0.7~1.3 cm。花期は5~6月。花は淡黄色で径1 cm、葉腋からごく細い花茎を出して1個をつける。唇弁は広披針形で反曲する。近縁種のムギランは卵形に肥厚した偽球茎の上端から1個の葉を出し、葉は倒披針形で長さ1~3 cmである。

2. 分布

国外では台湾、朝鮮半島、中国に、国内では本州（福島県以南）、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯山地の樹上や岩上に着生する。

4. 生育状況

産地は中部と西部に多い。産量は多い。樹上の高所や岩塊に着生するので、正確には不明であるが、落枝についている状況から生育は良好と推測される。

5. 減少の主要因と脅威

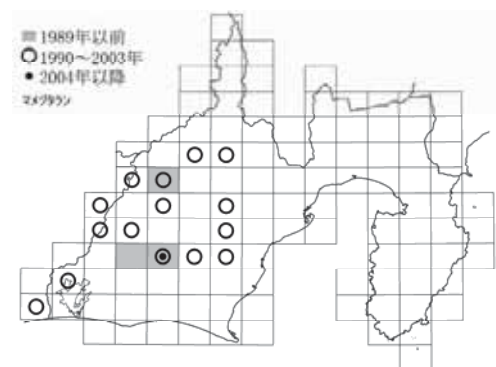
森林伐採(11)が主要因である。園芸採取(41)も多少の脅威である。

6. 保護対策

古木の伐採はしないで保存する。(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 1994年5月21日 宮崎一夫



ムギラン *Bulbophyllum inconspicuum* Maxim.

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

常緑多年草。樹木などに着生する。根茎は細くてやや硬く這う。偽球茎は卵形で長さ4~7 mm、先端に厚い1葉がつく。葉は長楕円形で長さ10~35 mm、先は鈍頭。花期は6~7月。花序は側生し、黄白色の花を1~3個つける。萼片と側花弁は卵状楕円形で3~4 mm、縁に毛がある。唇弁は狭卵形で反曲する。近縁種のミヤマムギランは葉の長さが40mm以上あり、先が鋭尖である。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州（宮城県以南）、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の樹幹や岩上に生育する。

4. 生育状況

産地は中部と西部に多い。産量は多い。生育状況は群生する割には開花数が少ない。

5. 減少の主要因と脅威

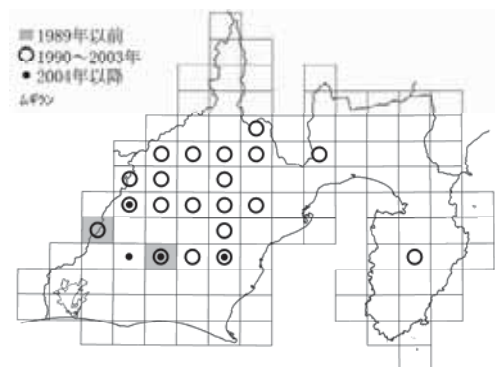
森林伐採(11)や風倒木が主要因である。岩塊の崩壊(55)や園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

着生している樹木の伐採を回避することが重要である。(宮崎一夫)



©2020 T. Saito
島田市 2015年6月28日 斉藤 猛



ミヤマムギラン *Bulbophyllum japonicum* (Makino) Makino

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

常緑多年草。樹木などに着生する。高さ1~5 cm。茎は匍匐分枝する。偽球茎は卵形で長さ6~8 mm、先端に1葉をつける。葉は常緑の革質で長さ4~8 cm。葉先は鋭尖。花期は6~7月。花茎は茎の基部から側生して3~5個の花をつける。花は暗紅紫色ときに黄色。唇弁は厚く長さ3 mm。近縁種のムギランは葉の長さが35mm以下で、先が鈍頭である。

2. 分布

国外では台湾、中国に、国内では本州（静岡県以西）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の山地で雲霧がかかる山中の、多くは岩上であるが樹幹にも着生する。

4. 生育状況

産地は西部のみでやや少ない。産量はやや少ない。生育状況は群生する割には開花数が少ない。

5. 減少の主要因と脅威

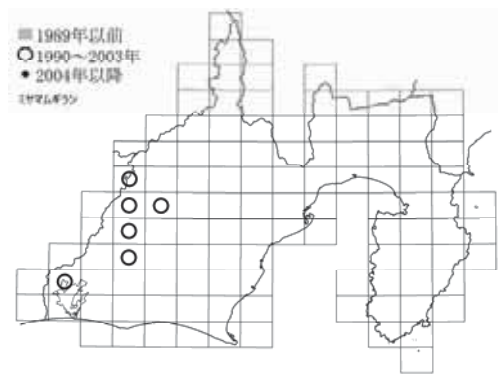
園芸採取(41)が主要因である。岩石の崩壊(71)や樹木の伐採(11)と倒木や落枝(54)も脅威である。

6. 保護対策

着生している樹木の伐採を回避することが重要である。
(宮崎一夫)



浜松市 2004年7月11日 杉野孝雄



エビネ *Calanthe discolor* Lindl.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

常緑多年草。高さ30~40 cm。偽球茎は球形で径2 cm。葉は2~3個あり、長楕円形で長さ15~25 cm、縦に5本の脈がある。花期は4~5月。花茎の半ばより上に多数の花をつける。萼片と側花弁は暗褐色。唇弁は淡紅色から白色で3深裂し、中裂片は2浅裂する。距は長さ5~10 mm、湾曲する。果実は卵状楕円形で長さ2.5~3 cm、下垂する。近縁種のサルメンエビネは距がない。

2. 分布

国外では中国に、国内では北海道、本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯下位の山地の林下に生育する。

4. 生育状況

産地は高山帯と亜高山帯を除いて広範囲にあり、多い。産量はきわめて多い。生育状況は単生から群生まであり、近年は目立った減少がなく、植林の林床に多く生育する。

5. 減少の主要因と脅威

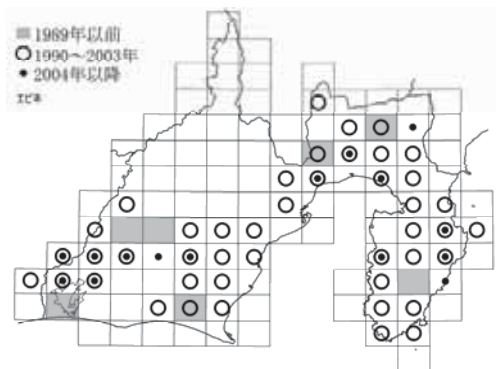
園芸採取(41)が主要因である。森林伐採(11)も脅威である。

6. 保護対策

森林伐採の際には、悪影響を低減するとともに、移植して代償措置を行う。
(宮崎一夫)



浜松市 2014年5月10日 宮崎一夫



キンラン *Cephalanthera falcata* (Thunb.) Blume

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~80 cm。根はやや太く球はない。葉はやや厚く 5~8 個が互生し長さ 8~15 cm、茎を抱き、葉脈が隆起して目立ち、透かすと 5 白線とその中に 5~7 個の緑線がある。花期は 4~5 月。茎の上部に総状花序に鮮黄色の花を 3~12 個つける。花は上向きに半開して長さ 14~17 mm。唇弁に黄褐色の肥厚した隆起条がある。距は筒形。近縁種のギンランの葉は薄く、距は円錐形。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯の山野の林下に生育する。

4. 生育状況

産地は高山帯と亜高山帯を除いて広範囲にあり多い。産量はきわめて多い。生育状況はよいが園芸採取により株数が減少している。

5. 減少の主要因と脅威

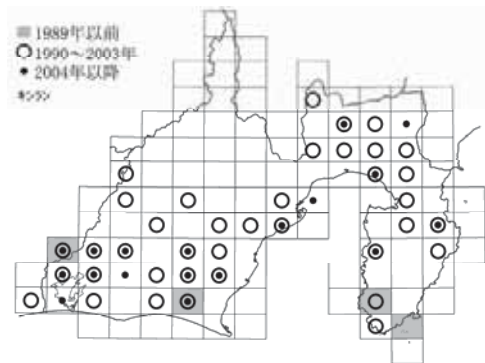
園芸採取 (41) が主要因である。植生遷移 (54) も脅威である。

6. 保護対策

自然産物は共有の財産であり、多くの県民が観賞できるように、保護を啓発することが重要である。(宮崎一夫)



浜松市 2008年4月30日 宮崎一夫



セッコク *Dendrobium moniliforme* (L.) Sw.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑多年草。樹木などに着生する。高さ 5~25 cm。茎は肉質な円柱形で節があり、基部から新苗が出て叢生する。葉は 2 年生で厚く披針形で長さ 4~7 cm。花期は 5~6 月。3 年目の葉が落ちた茎の上部の節に、白色または淡紅色の花を 1~数個つける。萼片は披針形で長さ 22~25 mm。唇弁は狭卵状三角形で中央に多数の短毛がある。近縁種のキバナノセッコクは花期が 6~11 月で、花が淡黄緑色である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、台湾、中国、ヒマラヤに、国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の巨木の樹上又は岩壁上に生育する。

4. 生育状況

産地は広範囲にあり多い。産量は多い。神社の境内の保存樹に着生することが多い。園芸採取により減少している。

5. 減少の主要因と脅威

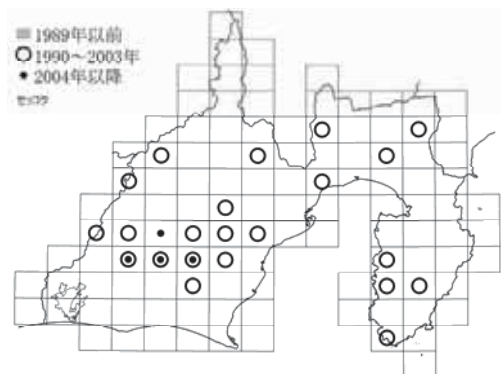
園芸採取 (41) が主要因である。森林伐採 (11) や風倒木・落枝 (71) も脅威である。

6. 保護対策

巨樹古木は歴史的な価値が高く、動植物の住み家でもあり保存することが重要である。(宮崎一夫)



周智郡森町 2016年11月4日 宮崎一夫



タシロラン *Epipogium roseum* (D. Don) Lindl.

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

菌従属性栄養の多年草。高さ 20~50 cm。地下茎は楕円形。茎は白黄色。葉は黄白色で、退化して鞘状である。花期は5~7月。花は白色で総状花序につく。萼片、側花弁、唇弁はともに長さ8~12 mm。唇弁は広卵形で紫紅色の細点を散りばめ背面が著しくふくれ、内面の中央に2条のとさか状の隆起がある。距は長楕円形で4 mm。

2. 分布

国外では熱帯アフリカ、アジア、オセアニアに、国内では本州（関東以西）、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

熱帯、暖帯、温帯の、常緑樹の腐葉土が多くて薄暗い林床に生育する。

4. 生育状況

産地は低地に多い。産量は多い。近年では新産地の確認情報が増えている。年による発生や株数の消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

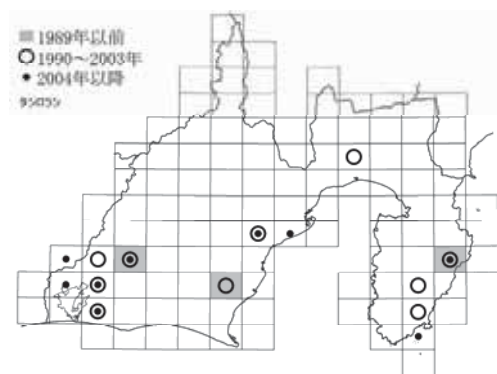
森林伐採 (11) が主要因である。

6. 保護対策

常緑広葉樹林を保全することが重要である。(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 2012年7月11日 宮崎一夫



クロヤツシロラン *Gastrodia pubilabiata* Y. Sawa

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

菌従属性栄養の多年草。高さ1~3 cm。花期は9~10月。茎の先端に1~8個の花を散形状につける。花は帯紫褐色でわずかに臭い匂いがある。萼と側花弁は合着して、先が分かれて平開し、径15~20 mm。唇弁の先端付近に2個の三角状の突起があり、内面にクリーム色の毛を密生する。近縁種のアキザキヤツシロランは生育環境も花期もほぼ同じであるが、花が平開しないで唇弁に毛がない。

2. 分布

国外では台湾に、国内では本州（関東以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の竹林や常緑樹林下に生育する。

4. 生育状況

産地は西部を主として多い。産量はやや多い。古い竹藪の適湿で朽ちた竹の林床に生育することが多い。産地及び産量は年による消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

竹林の伐採 (11) や開発 (23) が主要因である。

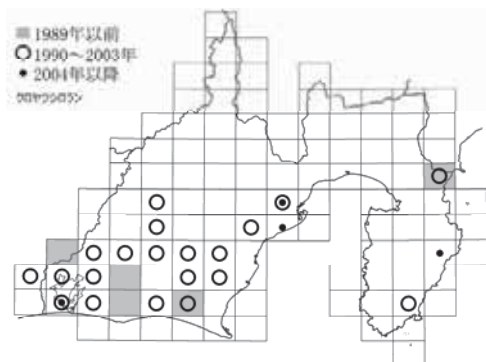
6. 保護対策

竹林は強い繁殖力で勢力を広げ里地や植林地に悪影響を与えているが、竹林を生活の場として先住権をもつ生物が住んでいるので、開発は慎重に配慮することが重要である。

(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 2013年10月4日 宮崎一夫



ウスギムヨウラン *Lecanorchis kiusiana* Tuyama

(=ウスキムヨウラン)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

菌従属栄養の多年草。高さ 10~25 cm。地上茎は直立し、黄褐色であるが乾くと黒色となる。花期は 5~6 月。花は茎頂にまばらに数個つけて、淡黄色、長さ 1 cm 未満で半開する。唇弁中片の内面に紅色の毛がある。

2. 分布

国外では台湾、韓国(済州島)に、国内では本州(関東地方以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地や低山地の常緑広葉樹林内に生育する。

4. 生育状況

中部と西部に広く生育し群生地もある。森林の伐採で減少している。

5. 減少の主要因と脅威

生育地である森林の伐採(11)が減少の主要因である。

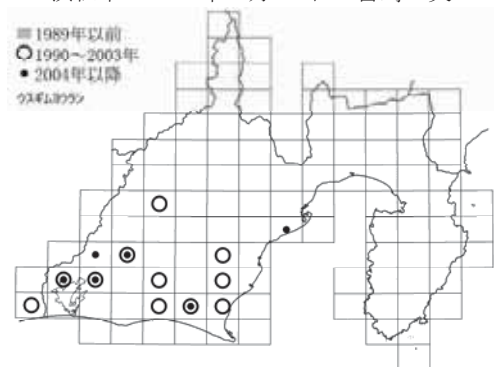
6. 保護対策

生育地の森林の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2017年5月31日 宮崎一夫



ミクリ *Sparganium erectum* L. var. *coranum* (H. Lév.) H. Hara

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ガマ科 Typhaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

抽水性の多年草。高さ 50~150 cm。地下茎は横に這い、先に新苗をつける。葉は水中から抽出して、2列生し線形で直立し、断面は三角形である。花期は 6~8 月。雌雄同株。花茎は分枝して、下部に雌性の頭花を 1~3 個つけ、上部に雄性の頭花を 2~数個つける。集合果は緑色の球形で径 15~20 mm。果実は倒広卵形で長さ 6 mm。近縁種のヒメミクリは高さ 30~60 cm、果実が倒卵形で長さ 4 mm。

2. 分布

国外ではアジア、ヨーロッパ、北アフリカに、国内では北海道、本州、四国、九州に、県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

低地の湧水が流入し、泥土が堆積した川や池沼の水湿地に生育する。

4. 生育状況

産地は中部と西部にあり多い。産量は多い。株数の割に開花株は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

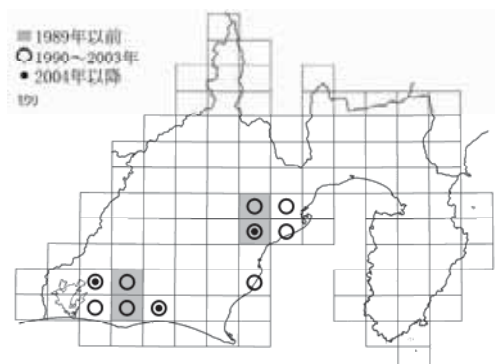
河川改修(13)が主要因である。洪水(55)も一時的に生育の脅威である。

6. 保護対策

河川改修する時には、一旦、別の適地やバケツに移植しておく、改修後に植え戻して復元する。(宮崎一夫)



浜松市 2013年6月9日 宮崎一夫



ナガエミクリ *Sparganium japonicum* Rothert

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ガマ科 Typhaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

抽水性の多年草。高さ70~130 cm。葉は2列生し、断面は三角形である。花期は6~9月。雌雄同株。花序は腋生で分枝しない。花序の雌頭花は3~7個つき、下方の雌頭花は柄がある。上方に柄のない雄頭花が数個つく。集合果は球形で径1.5~2 cm。果実は短柄があり紡錘形で長さ5 mm。近縁種のタマミクリは果実の中央部分がくびれる。

2. 分布

国外では朝鮮半島に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では西部、中部、東部、伊豆に分布する。

3. 生育環境

湧水が流入する小川の泥土が堆積した所に生育する。

4. 生育状況

産地は多い。産量はきわめて多い。流速が速いと開花をする株は少ないが、栄養繁殖していて群生している。

5. 減少の主要因と脅威

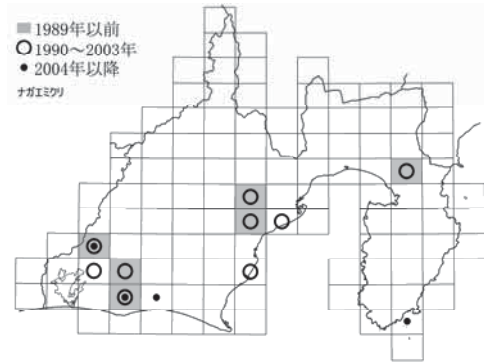
河川改修(13)が減少の主要因となる。水質の悪化(31)や水量の減少(71)も脅威である。

6. 保護対策

河川改修をする時には、一旦、別の適地やバケツに移植しておき、改修後に植え戻して復元する。(宮崎一夫)



袋井市 2014年7月19日 宮崎一夫



クロイヌノヒゲ *Eriocaulon atrum* Nakai

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) : 変更コード1

ホシクサ科 Eriocaulaceae

[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草。葉は線形で長さ2~10 cm、中部の幅1~3 mmで根部から叢生する。花茎は高さ5~12 cm、4~5肋ある。花期は8~9月。頭花は径3~4 mmある。総苞片は卵状披針形で上部は黒色を帯びる。花床は無毛である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ヒマラヤに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。伊豆に記録のあるものはツクシクロイヌノヒゲである。

3. 生育環境

低山地のため池の畔の湿地に生育する。

4. 生育状況

浜松市北区に生育する。産地は限られて個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

本県では生育地や生育環境が限定され(61)、存続の危険性が高い植物である。生育地であるため池の埋め立て(12)や、周辺の湿地の遷移進行(54)で消失の危険性が高い。

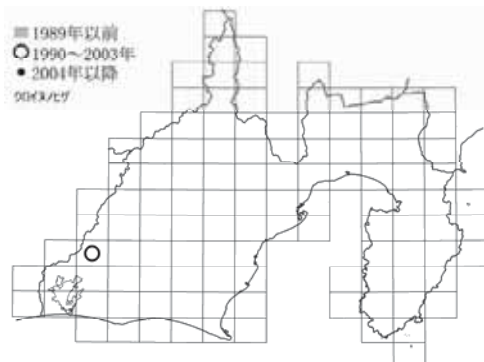
6. 保護対策

生育地の保護と周辺の湿地の維持管理が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 1996年9月16日 内藤宇佐彦



クモマスズメノヒエ *Luzula arcuata* (Wahlenb.) Sw.
subsp. *unalaschkensis* (Buchenau) Hultén.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし
イグサ科 Juncaceae
[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 15~25 cm。葉は先が硬質化しないで鋭形。花期は 7~8 月。花序は小枝が細く垂れ下がる。花は 1~3 個ずつつき長さ 2 mm、暗褐色で上方淡色、小苞は辺毛があり、花被片は鋭尖する。蒴果は花被と同長。近似種のタカネイは葉の先が硬質化して鈍形。

2. 分布

国外では千島、朝鮮半島、中国、北米、北欧に、国内では北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では中部（南アルプス）に分布する。

3. 生育環境

高山帯の乾いた岩地や砂礫地に生育する。

4. 生育状況

南アルプスの広範囲で記録がある。近年の産地では東岳の確認情報がある。産量は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移 (54) の進行が要因と思われる。

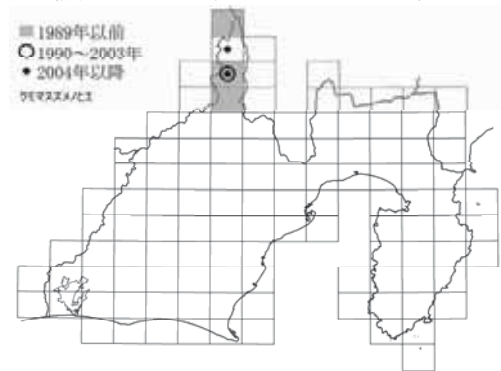
6. 保護対策

確認産地は登山道を迂回するなど状況にあった整備をする。

(宮崎一夫)



静岡市 2018年7月26日 室伏幸一



センダイスゲ *Carex lenta* D. Don var. *sendaica* (Franch.) T. Koyama

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更コード 4
カヤツリグサ科 Cyperaceae
[2004年版カテゴリー なし : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~30 cm。ナキリスゲに似る。根茎は横に這う。果期は 9~10 月。小穂は苞の鞘内から 1~3 個出て、雌雄性であり、上方に短く雄花がつきその下に雌花をつける。果胞は広楕円形である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

海岸付近の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

下田市に生育する。生育地は限られていて個体数は少ない。近年、県内において新たに分布が確認された。

5. 減少の主要因と脅威

海岸付近の遊歩道沿いに生育するので歩道整備 (14) などによって生育地が消失する危険性がある。

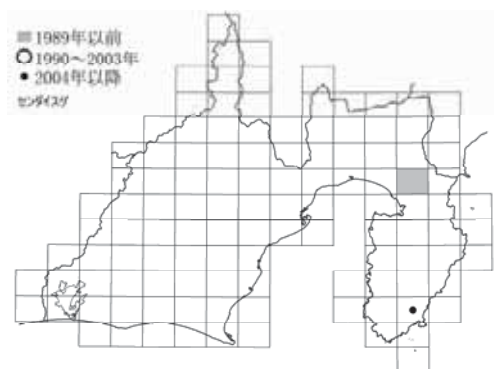
6. 保護対策

遊歩道整備の際には本種を認識し、生育地の保護に努める必要がある。

(内藤宇佐彦)



下田市 2013年11月2日 内藤宇佐彦



ヒメコヌカグサ *Agrostis valvata* Steud.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~70cm。稈はやや多数束生し、細くて柔らかい。葉身は扁平で毛はなく、幅 3~5 mm。花期は 5~6 月。円錐花序の枝は半輪生で、長さ 2.5~3 mm の小穂をまばらにつける。小花は苞穎と同長かより少し長く、小花が散ったのちも柄上に苞穎が残る。芒はない。

2. 分布

日本固有種で、本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地の林内や林縁の湿地に生育する。

4. 生育状況

西部に点在する。

5. 減少の主要因と脅威

生育地は開発されやすい湿地なので、減少傾向にある (15)。

6. 保護対策

土地開発の際には事前調査とその保護対策が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市北区 2017年5月12日 内藤宇佐彦



ヤマシャクヤク *Paeonia japonica* (Makino) Miyabe et Takeda

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ボタン科 Paeoniaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~50 cm。茎は無毛で基部に鞘状の鱗片がある。葉は 2 回 3 出複葉。花期は 4~6 月。花は茎頂に 1 個で径 5~10 cm。萼片は緑色卵形、ふつう 3 個。花弁は白色、5~7 枚。雌蕊は 2~3 個。柱頭はやや外曲する。袋果は湾曲する。近縁種のベニバナヤマシャクヤクは頂小葉の先が鋭形または鈍形で、雌蕊は 3~5 個。

2. 分布

日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の低山から温帯山地で夏緑性広葉樹林の林床や林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は県内に広くある。産量が多い。園芸採取により減少の一途を辿っている。

5. 減少の主要因と脅威

園芸対象種としての採取 (41) が主要因である。森林伐採 (11) も脅威である。

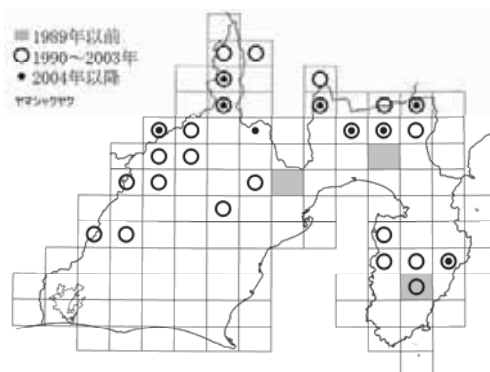
6. 保護対策

産量が減少しないうちに一部は一般人に公開して観賞できるように保護整備する。

(宮崎一夫)



富士宮市 2014年5月21日 宮崎一夫



キバナハナネコノメ *Chrysosplenium album* Maxim. var. *flavum* H. Hara

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ユキノシタ科 Saxifragaceae

[2004年版カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 2~7 cm。根際の茎は花後に伸長する。花茎は白色の軟毛があり、茎葉は 1~2 対を対生する。葉身は扇状円~円腎形で、長さ 1~8 mm、幅 2~9 mm。花期は 3~4 月。萼片は直立して長卵形、先端が尖り、黄色である。

2. 分布

日本固有変種で、本州 (静岡県、愛知県、岐阜県、長野県) に分布する。県内では西部、中部に分布する。

3. 生育環境

山地の沢沿いの岩上に生育する。

4. 生育状況

北部山地の各地に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

森林の伐採 (11) や林道の建設 (24) などで減少傾向にある。

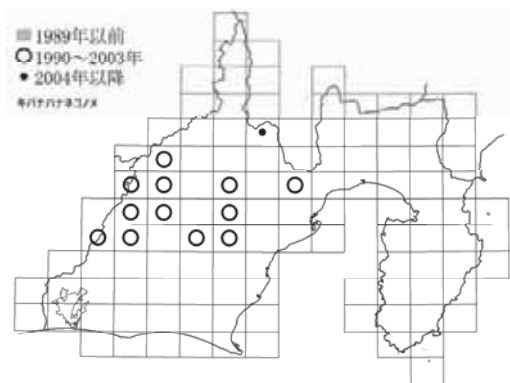
6. 保護対策

生育地である森林の保護が必要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 U.Naito
浜松市天竜区 2001年4月8日 内藤宇佐彦



ムカゴネコノメソウ *Chrysosplenium maximowiczii* Franch. et Sav.

静岡県カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ユキノシタ科 Saxifragaceae

[2004年版カテゴリ 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 3~15 cm。地中性の走出枝の先端に長さ 1 cm ほどの珠芽が出来る。地上性の走出枝にはふつう葉がつく。花茎は前年に地中にできた珠芽から出て、白毛がまばらにつく。茎葉は 2~3 対が対生または一部互生する。葉身は卵円~広倒卵形で長さ幅とも 4~18 mm。花期は 3~4 月。花序はまばらに少数の花をつける。萼裂片は直立し、広卵形で緑色または淡緑色。

2. 分布

日本固有種で、本州 (関東・東海地方) に分布する。県内では伊豆、東部、中部に分布する。

3. 生育環境

暖温~冷温帯のやや湿った樹林下。

4. 生育状況

産地は少なく、山地の開発などにより減少している。

5. 減少の主要因と脅威

山林伐採 (11) による急激な環境変化や人工林の管理放棄 (53) による下層植生の増加が減少の主要因である。またシカによる踏みつけ (52-1) も脅威である。

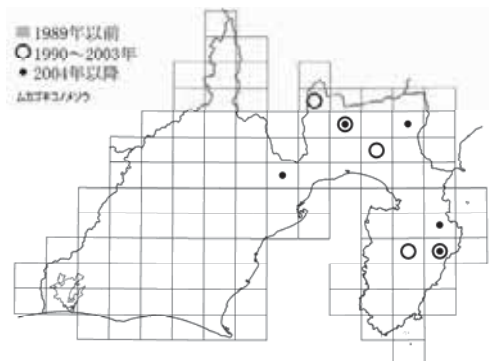
6. 保護対策

生育地とその周辺の植生管理が必要である。

(湯浅保雄)



©2020 K.Murofushi
静岡市 2013年3月27日 室伏幸一



ツメレンゲ *Orostachys japonica* (Maxim.) A. Berger

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ベンケイソウ科 Crassulaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年性。多肉植物。高さ10~30 cm。葉は多肉の披針形で長さ2.5~6 cm、先端が鋭く尖る。花期は10~11月。花茎は直立し、塔状。萼片は披針形で長さ2 mm。花弁は白色の披針形で長さ5~6 mm。蜜腺は四角形で長さ0.7 mm。葯は暗紅紫色。ロゼットで越冬して、開花した株は枯れる。近縁種のイワレンゲは葯が黄色である。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州（関東以西）、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

海岸から山地の日当たりのよい岩上に生育する。古い茅葺きや瓦の屋根、山里の民家を囲う石垣にも生育する。

4. 生育状況

産地は伊豆と西部に多い。産量は多い。ロゼットも多く生育は安定しているが、園芸採取の影響がある。

5. 減少の主要因と脅威

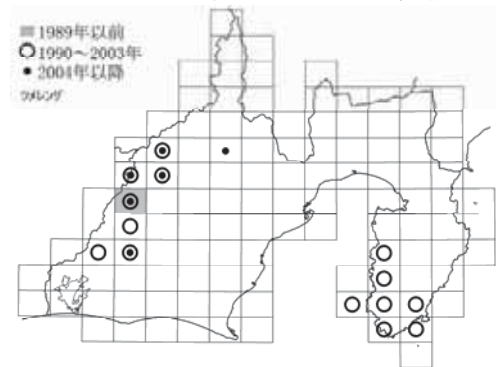
道路の拡幅(24)など工事による生育地の破壊が主要因である。園芸採取(41)も脅威である。

6. 保護対策

道路の拡幅工事や、金網や吹きつけによる落石防止の工事による悪影響を回避する。(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2008年11月9日 宮崎一夫



タコノアシ *Penthorum chinense* Pursh

(=サワシオン)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

タコノアシ科 Penthoraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年性。高さ40~110 cm。茎は硬く下部で太く直立する。葉は細鋸歯があり、ほとんど無柄の披針形で長さ5~10 cm。花期は8~9月。総状花序は茎の上部から斜上し、渦巻状から徐々に開く。花は径4~5 mmで多数が並び、花弁はない。蒴果は径6~7 mm。種子は狭卵形で長さ0.7 mm。茎や花序は枯れた状態で冬でも残り赤褐色から暗褐色。

2. 分布

国外では東アジアに、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

河川や池沼の縁で泥土が堆積して根元に水が浸る程度の泥湿地に生育している。

4. 生育状況

産地は低地の広範囲にあり多い。産量は年による変動があるが全体では多い。河川の出水による攪乱が起ると、遷移を抑制して新たな生育の場となり、埋土種子から実生が生ずる。

5. 減少の主要因と脅威

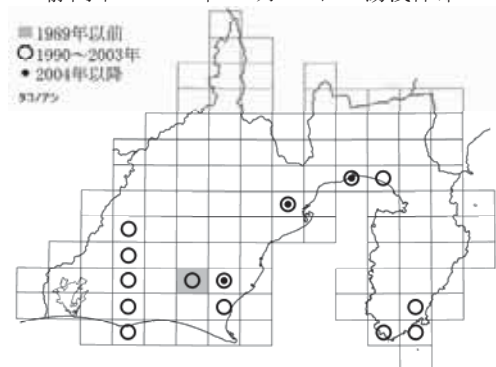
河川の改修や堤防の構築が(13)脅威である。ため池を開発(12)してなくすことも脅威である。

6. 保護対策

生育の場を確保するために、コンクリートを用いた施工を避けることも重要である。(宮崎一夫)



©2020 Y. Yusa
静岡市 2011年10月12日 湯浅保雄



サンショウバラ *Rosa hirtula* (Regel) Nakai

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

バラ科 Rosaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

落葉小高木。幹は太く 10 cm 以上になることがある。枝には扁平な刺がある。葉は奇数羽状複葉で、小葉は 6~8 対、長楕円形で長さ 1~2.5 cm、縁に細い多数の鋸歯がある。花は 6 月に小枝の先につき、径 5~6 cm と大きい。花卉は倒卵形で淡紅色、萼筒には全面に刺がある。偽果は径 3 cm ほどの球形で刺が多い。

2. 分布

日本固有種で、本州 (山梨県、神奈川県、静岡県) に分布する。県内では伊豆と東部に分布する。フォッサマグナ要素の植物とされる。

3. 生育環境

中間温帯から冷温帯にかけての山林内や林縁。

4. 生育状況

個体数は多くないが、富士・箱根を中心に広く分布する。

5. 減少の主要因と脅威

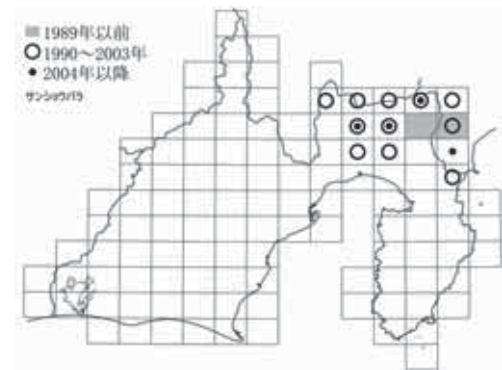
山林のスギ・ヒノキ林化 (71) と土地開発 (23) が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地の開発やスギ・ヒノキへの樹種転換を行わないこと。
(湯浅保雄)



御殿場市 1997年5月17日 杉野孝雄



サクラバハノキ *Alnus trabeculosa* Hand. -Mazz.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

カバノキ科 Betulaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

落葉高木。高さ 20 m に達する。幼木は部分的にコクサギ型葉序となることもある。葉は長さ 1~2 cm の柄があり、長楕円形で長さ 6~10 cm、細鋸歯があり側脈は 9~12 対。花期は 2~3 月。雄花序は枝の先に 3~5 個をつけ下垂する。雌花序は雄花序の下方につき上向きで短柄がある。近縁種のハノキは葉の側脈が 7~9 である。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州 (岩手県以南)、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯低地のやや湿った場所から水湿地に生育する。

4. 生育状況

産地は西部に局限する。産量は多くない。幼木から成木まであり生育は良好である。

5. 減少の主要因と脅威

乾燥化 (71) が主要因である。湿地の開発 (15) も脅威である。

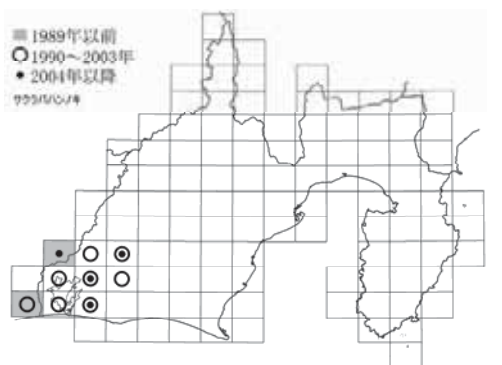
6. 保護対策

道路工事などの開発行為で地下水脈を分断しない。

(宮崎一夫)



浜松市 2015年5月1日 宮崎一夫



コオトギリ *Hypericum hakonense* Franch. et Sav.

(=コオトギリソウ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, c) 変更なし

オトギリソウ科 Hypericaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 10~50 cm。数本の茎が叢生し、茎は円柱形。葉はやや厚く、披針~楕円形で、長さ 8~30 mm、幅 2~6 mm。明点と赤点を交え縁に黒点がある。花期は 7~9 月。花は 1~10 個が枝先につく。花弁は黄色で内側に黒線と黒点があり、縁に黒点がある。雄蕊は 30~35 個で 3 束にまとまる。近縁種のクロテンコオトギリは葉に黒点のみがある。

2. 分布

日本固有種で、本州 (東京都、神奈川県、山梨県、静岡県) に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に広く分布する。フォッサマグナ要素の植物とされる。

3. 生育環境

山地の湿り気のある林縁や林道の切り取り法面下部。

4. 生育状況

産地の範囲は広い。産量は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

林道の管理や整備 (24)。登山者の踏みつけ (51)。

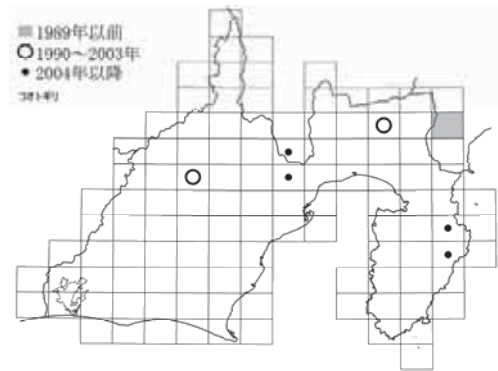
6. 保護対策

林道法面や登山道の草刈りを行うときには、ダメージを与えないように注意する。

(湯浅保雄)



小山町 2003年9月5日 杉野孝雄



ミズマツバ *Rotala mexicana* Cham. et Schldl.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ミソハギ科 Lythraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ 3~10 cm。基部は枝を伸ばして地面を這う。葉を 3~4 枚輪生し、線~長披針形、長さ 5~10 mm である。花期は 8~10 月。花は葉腋に単生し淡紅色、萼筒には三角形の五裂片があり、長さ 0.8 mm。花弁はない。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、フィリピン、インド、中央~西アジア、アフリカ、中央アメリカなどに、国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

平地から山間部の水田、池沼や中小河川の河口部などの湿地に生育する。

4. 生育状況

各地に生育するが産地の消失で減少してきている。

5. 減少の主要因と脅威

水田などでは耕作放棄 (53) の増加で生育適地の消失、農薬散布 (32) などにより水質が悪化したことで減少している。

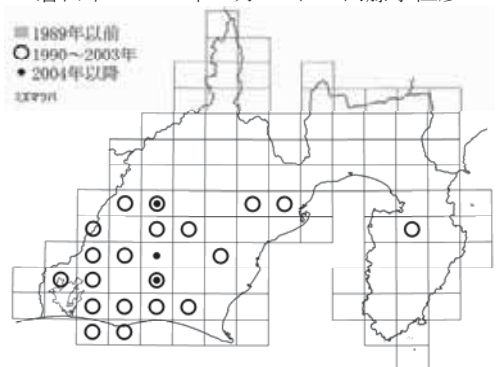
6. 保護対策

生育地の水田では現在の耕作形態の維持が重要である。

(内藤宇佐彦)



磐田市 2016年9月11日 内藤宇佐彦



ウスゲチヨウジタデ *Ludwigia epilobioides* Maxim.

subsp. *greatrexii* (H. Hara) P. H. Raven

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

アカバナ科 Onagraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

一年草。高さ15~100 cm。茎は直立する。葉は互生し短柄があり全縁、長さ7~10 cm。花期は8~10月。花は黄色、花弁、萼片は5個ずつ。花床に白毛が密生する。別亜種のチヨウジタデは花弁、萼片が4個ずつで、花床はほぼ無毛である。

2. 分布

国外では中国南部、台湾に、国内では本州(関東地方以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

湿地と水田、水路などである。

4. 生育状況

前回(2004年)調査時に比べ確認箇所が大幅に減少している。調査不足が影響している可能性もある。

5. 減少の主要因と脅威

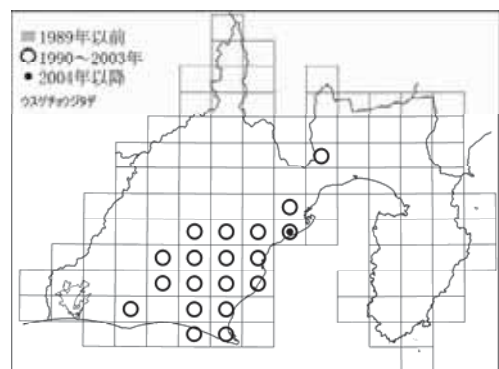
湿地の埋め立て(15)や湿地の植生遷移(54)、水田での除草剤の使用(32)、さらに水路のコンクリート化(13)が減少の主要因である。

6. 保護対策

本種を保全するには、湿地を定期的に攪乱するなど、ヨシの密生化を防ぐ対策を講じる必要がある。(湯浅保雄)



静岡市 2019年9月22日 宮崎一夫



サクラガンピ *Diplomorpha pauciflora* (Franch. et Sav.) Nakai

(=ヒメガンピ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ジンチョウゲ科 Thymeraeaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

落葉低木。高さ2 mほど。葉は卵形で2列に互生する。下面に伏毛があり、長さ20~35 mm。花期は7~8月。花序はゆるく分岐し、数花ずつ集まる。花は淡黄色で、萼筒は長さ約5 mm。

2. 分布

日本固有種で、国内では本州(神奈川県、静岡県)に分布する。県内では伊豆に分布する。フォッサマグナ要素の植物とされている。

3. 生育環境

暖帯の2次林、岩場、道路の側壁など日当たりのよい所を好む。

4. 生育状況

伊豆の低地に広く生育する。個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

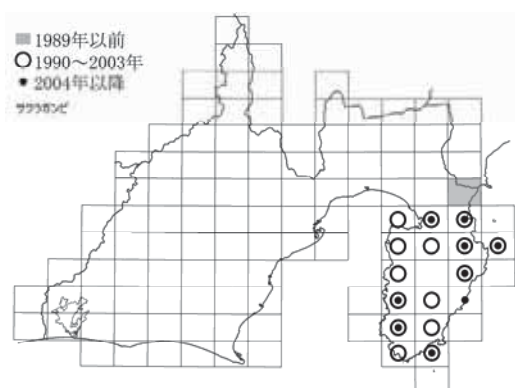
遷移の進行(54)により被陰されると衰退する。修善寺半紙の原料として過去に大量に採取された(42)。今は半紙の原料としての採取はなくなっている。

6. 保護対策

競合関係にある高茎雑草を定期的に刈り取ることが必要である。(西口紀雄)



伊豆市 2017年9月27日 香西博子



ヤナギヌカボ *Persicaria foliosa* (H. Lindb.) Kitag.

var. *paludicola* (Makino) H. Hara

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

タデ科 Polygonaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。高さ30~80 cm。茎の下部は斜めに倒れ、節から根を出し、上部は立つ。葉はほとんど無柄で細長く、裏面に腺点があり、長さ3~9 cm。花期は9~10月。偽総状花序花は頂生及び腋生でほぼ直立し、花をまばらにつける。萼は5裂して淡紅色、長さ1.5~2 mm。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国東部に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地や丘陵地の沼地や池などの水辺に生える。

4. 生育状況

静岡市に生育する。産地は限られて個体数は少なく減少している。

5. 減少の主要因と脅威

沼地や湿地の開発 (15) で生育地が消失している。また水辺の植生の遷移進行 (54) で生育環境が悪化していることが原因である。

6. 保護対策

生育地の保護と草刈りなど遷移進行の抑制が重要である。(内藤宇佐彦)



静岡市 2017年9月24日 内藤宇佐彦



クロミノニシゴリ *Symplocos paniculate* (Thunb.) Miq.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ハイノキ科 Symplocaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

落葉低木。樹皮は紙状に薄くはがれる。小枝と花序は毛がない。葉は倒卵~長楕円形で縁に低い細鋸歯があり、長さ4~10 cm、両面とも無毛である。花期は5~6月。花は白色で円錐花序に多数つく。果実は卵球形で黒く熟し、長さ6~8 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州 (東海地方、近畿地方) に分布する。県内では西部 (浜名湖周辺) に分布しており、静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

丘陵地のため池や湿地のほとりに生育する。

4. 生育状況

浜名湖周辺に生育する。生育地と個体数は少なく、減少傾向がみられる。

5. 減少の主要因と脅威

生育地が人里周辺であり、土地開発 (15、23) の危険性が高く、消失した産地もある。

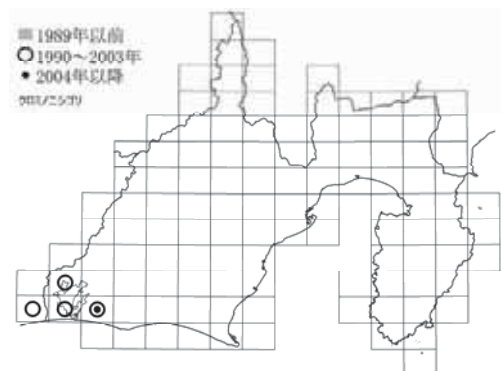
6. 保護対策

生育地であるため池や丘陵地周辺の湿地の保護と生育場所の被陰をさけるために間伐などの措置が必要である。

(内藤宇佐彦)



浜松市 2017年5月26日 内藤宇佐彦



アマギツツジ *Rhododendron amagianum* (Makino) Makino

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B類 (EN)]

1. 種の解説

落葉低木。高さ3~6 m。若枝や葉柄には淡褐色の長毛が密生する。葉は枝先に3枚輪生する。葉身はやや厚く菱形円形、長さ5~9 cm。幅4~9 cm。両面とも長毛を散生し、裏面の脈上には密生する。6月下旬~7月中旬に枝先に、一個の花芽から2~3個の花をつける。花冠は朱色で、径4~5 cm。雄蕊は10本、子房には淡褐色の長毛が密生する。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県)に分布する。県内では伊豆に分布する。伊豆半島特産。

3. 生育環境

暖帯上部から温帯の尾根筋。

4. 生育状況

場所によっては群生しているが、全体的には減少している。

5. 減少の主要因と脅威

森林の開発(23)や人工林化(71)が減少の主要因である。

6. 保護対策

生育地の森林は落葉広葉樹で維持すること。

(湯浅保雄)



伊豆市 2007年7月4日 加藤 徹



アマギシャクナゲ *Rhododendron degronianum* Carrière

var. *amagianum* (T. Yamaz.) T. Yamaz.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑低木。高さ2~4 m。若枝には白色の綿毛が生える。葉は革質長楕円形、若いときには表面に白い伏毛がある。成葉の裏には短い枝状毛が密生する。5月頃枝先に短い総状花序を伸ばし、5~12個の花をつける。花冠は紅紫色で径4~5 cm。ふつう5裂するが6~7裂のものもまじる。雄蕊は10本。

2. 分布

日本固有変種で、本州(静岡県)に分布する。県内では伊豆に分布する。伊豆半島特産。

3. 生育環境

暖帯上部から温帯の尾根筋の明るい落葉広葉樹林の林内や岩場。

4. 生育状況

群生地があり個体数も多いが、減少しつつある。

5. 減少の主要因と脅威

台風による被害(71)や登山者による根元の踏みつけ(51)が減少の主要因である。

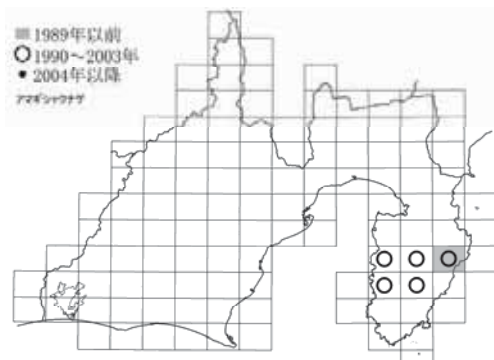
6. 保護対策

登山者の群落内への立ち入りを制限すること。

(湯浅保雄)



伊豆市 2002年5月13日 宮崎一夫



アシタカツツジ *Rhododendron komiyamae* Makino

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

半常緑低木または高木。高さ2~3 m。時に10 mに達する。若枝や葉柄には淡褐色剛毛が密生する。葉には春葉と夏葉があり、夏葉は小さく長さ1~1.5 cm、幅2~3 mmで冬を越す。5~6月頃、枝先の1個の花芽から2~4個の花を開く。花冠は紅紫色で径2~3 cm。雄蕊はふつう7本、ときに6~9本。

2. 分布

日本固有種で、静岡県特産である。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

温帯の疎林内や林縁あるいは岩地。

4. 生育状況

以前は、かなりの個体数が広い範囲に生育していたが、森林伐採や林種転換、あるいは開発造成によって生育面積が減少し、個体数も減少した。

5. 減少の主要因と脅威

森林開発 (23) や園芸採取 (41) が減少の主要因である。

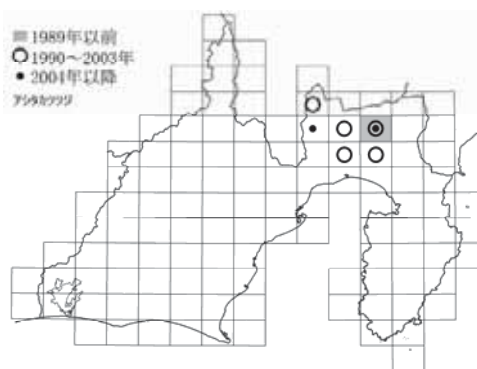
6. 保護対策

生育している森林の保全を図ること。

(湯浅保雄)



裾野市 2010年5月21日 宮崎一夫



エンシュウシャクナゲ *Rhododendron makinoi* Tagg ex Nakai

(=ホソバシャクナゲ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

常緑低木。高さ1~2 m。若枝や葉柄は褐色の綿毛が密生する。葉柄は長さ1~2.5 cm。葉は狭長楕円形で長さ7~18 cm、幅1~2.5 cm、革質で枝先に集まってつく。花期は5月。花は枝先に5~10個を総状花序につける。花冠は漏斗形で長さ4~5 cm、5中裂して紅紫色。雄蕊は10個。花序の苞片は開花時にも残る。近縁種のアズマシャクナゲは葉幅が1.5~3.5 cm、花序の苞片は開花時には落ちる。

2. 分布

日本固有種で、本州 (静岡県、愛知県) に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山地の尾根に沿った岩場に生育する。

4. 生育状況

産地は西部に局限している。小苗を含めると株数はやや多いが、植林に被われて開花株は少ない。園芸採取により減少している。一部では保護・保全が施されている。

5. 減少の主要因と脅威

樹冠の被陰による衰退 (54) と園芸採取 (41) が脅威である。

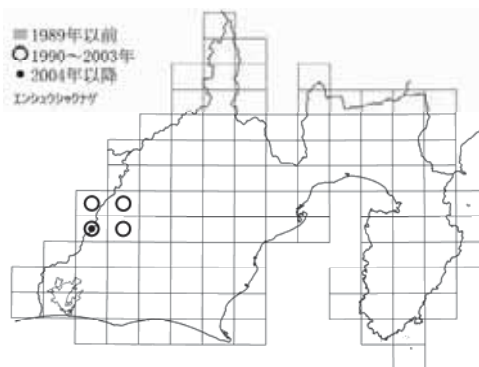
6. 保護対策

林冠の伐開による光条件の回復を図る。

(宮崎一夫)



浜松市 2008年5月5日 宮崎一夫



シブカワツツジ *Rhododendron sanctum* Nakai

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

落葉低木。基本種ジングウツツジの変種。高さ2~4 m。あまり下枝が横に張らず、枝は上に伸びる傾向が強いののでほうき状の樹形を作る。葉はやや大きく枝先に3輪生する。花芽に白軟毛がやや密に生える。花は紅紫色で5~6月上旬に開く。

2. 分布

日本固有種で、本州 (静岡県、愛知県) に分布する。県内では西部 (浜松市北区) に分布する。

3. 生育環境

蛇紋岩地帯に群生する。

4. 生育状況

産地は限られている。個体数は多い。

5. 減少の主要因と脅威

生育地である蛇紋岩地での疎林の遷移進行 (54) で減少傾向がみられる。また園芸採取 (41) の危険性も指摘される。

6. 保護対策

旧引佐町内では自生地の群落が県の天然記念物に指定されている。生育場所での間伐など、遷移抑制をはかる適切な維持管理が求められる。また園芸採取などを防止するための啓発活動も大切である。

(内藤宇佐彦・宮崎一夫)



浜松市 2015年5月24日 内藤宇佐彦



ハコネコメツツジ *Rhododendron tsusiophyllum* Sugim.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

ツツジ科 Ericaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

常緑小低木。高さ20~60 cm。幹は屈曲し、枝は車輪状に出て密生する。若枝には褐色の毛が密に生える。葉は互生し、楕円形で長さ7~10 mm、幅4~6 mm。両面に硬い毛が生え、裏面脈上には褐色の伏毛が生える。花期は6~7月。葉の間に白色の小さな筒形の花を開く。花冠の筒部は長く約8 mm。先は浅く4~5裂し、花柄には褐色の毛が密に生える。雄蕊は5本。葯は縦に裂ける。

2. 分布

日本固有種で、本州 (秩父・富士山周辺・丹沢・箱根付近)、御蔵島に分布する。県内では伊豆、東部に分布する。

3. 生育環境

山地の岩場に生育する。

4. 生育状況

山地は限られているが群生している所もある。しかし、園芸用採取によって減少している。

5. 減少の主要因と脅威

園芸用採取 (41) が減少の主要因である。

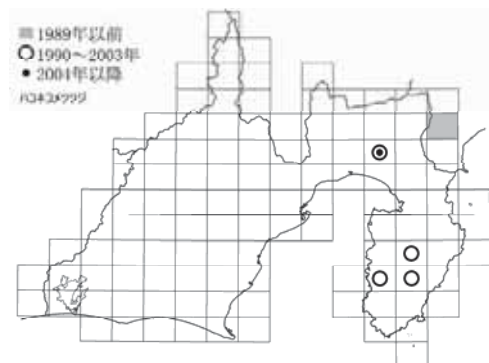
6. 保護対策

園芸採取を防ぐ方策を講ずる。

(湯浅保雄)



富士市 2019年8月13日 室伏幸一



イヌセンブリ *Swertia tosaensis* Makino

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

リンドウ科 Gentianaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草または越年草。高さ5~50 cm。センブリによく似る。葉は対生し、長さ0.7~2 cm、倒披針形で先は鈍い。花期は10~11月。花は狭い円錐状につき5数性、花冠は径15 mm、白色で淡紫色の条がある。全草に苦味がなく、薬には用いられない。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆と西部に分布する。

3. 生育環境

丘陵地や低山地のため池のほとりや水田の周辺などの湿った草地に生育する。

4. 生育状況

各地に点在し、群生している所もある。開発されやすい所が生育地のため減少傾向がある。

5. 減少の主要因と脅威

ため池の改修(12)や土地造成(23)によって生育地が減少している。また、水田の土手などでは管理不足(53)によって生育適地が消失している。

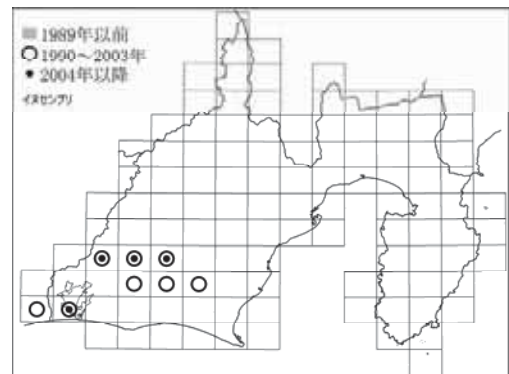
6. 保護対策

生育地の保護が必要であり、草刈りなどをして草地環境の維持管理が重要である。

(内藤宇佐彦)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 2013年11月2日 宮崎一夫



クサナギオゴケ *Vincetoxicum katoi* (Ohwi) Kitag.

(=ヤマワキオゴケ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

キョウチクトウ科 Apocynaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ30~80 cm。茎は直立して上部が斜上し、ツルに伸びることがある。葉柄は0.5~2 cm。葉は茎の中部に数対あり、長楕円形で長さ8~18 cm、先は尖り基部はくさび形。茎頂に近い葉腋から枝分化する花序を出し、疎に花をつける。花期は5~6月。花は淡紫褐色で径6~9 mm。近縁種のタチカモメヅルは葉を多数つけて基部が円形である。花が白色のもの品種シロバナクサナギオゴケという。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東地方以西)、四国に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯のやや湿った草地や常緑樹林の林床に生育する。

4. 生育状況

産地は多い。産量は多い。植生遷移の圧力を受けている。園芸採取もあり減少している。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。樹冠の被陰となっていて生育が悪く開花株数が少ない。

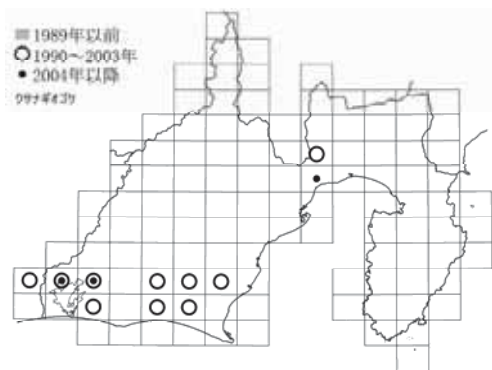
6. 保護対策

被陰となっている高木を択伐して、光条件の改善を図ることが重要である。

(宮崎一夫)



©2020 K.Miyazaki
浜松市 2016年6月8日 宮崎一夫



スズサイコ *Vincetoxicum pycnostelma* Kitag.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

キョウチクトウ科 Apocynaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 40~80 cm。ひげ根は太くて多い。葉は長披針~線状長楕円形で長さ 6~13 cm、茎に互生する。花期は 6~8 月。花序は茎の先や上部の葉腋から出て、集散状にまばらに花をつけ黄褐色である。花は朝に開き日が当たると閉じる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国、ダフリアに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯の丘陵地の草原、山麓などの乾いた日当たりのよい場所に生育する。

4. 生育状況

各地に生育するが少ない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地である草地植生の遷移進行 (54) で減少している。

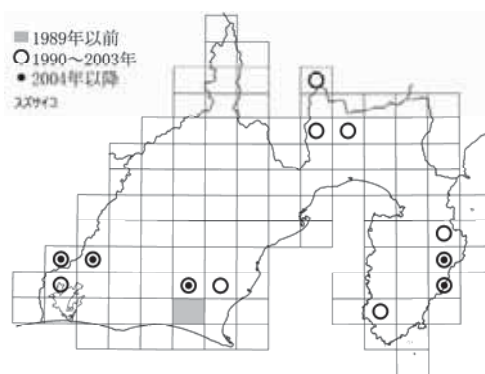
6. 保護対策

疎林周辺や草地、農地の土手などでは草刈りなどをして、草地環境の維持が必要である。

(内藤宇佐彦・宮崎一夫)



掛川市 1993年7月9日 宮崎一夫



アオホオズキ *Physalisastrum japonicum* (Franch. et Sav.) Honda

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ナス科 Solanaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 II 類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~60 cm。葉は長楕円形で、葉身の長さは 5~12 cm、幅 2.5~4.5 cm。0.5~1.5 cm の柄があり、茎とともに短毛を散生している。花期は 6~7 月。葉腋にふつつ 1 個の下向きの花をつける。花冠は淡緑色で径 1.5 cm。広鐘形で先は浅く 5 裂し、外面に短毛がやや密に生える。液果は長楕円形で長さ 1 cm、緑色で短い刺のある萼に包まれる。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の谷沿いのやや湿り気のある林中に生育する。

4. 生育状況

点在し、個体数は少ない。

5. 減少の主要因と脅威

シカによる踏みつけと食害 (52-1) が減少の主要因と考えられる。

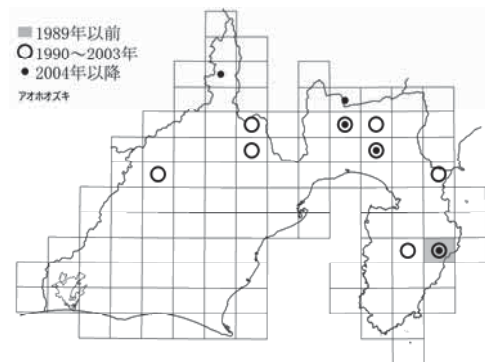
6. 保護対策

シカの個体数調節や防護柵の設置が必要である。

(湯浅保雄)



富士宮市 1999年6月8日 杉野孝雄



イヌノフグリ *Veronica polita* Fr. var. *lilacina* (T. Yamaz.) T. Yamazaki

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

オオバコ科 Plantaginaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

越年草。茎は下部で分枝して広がる。葉は短柄があり、下部では対生して上部では互生し、葉身は卵円形で長さ1 cm、ほとんど無毛で辺縁には粗い鈍鋸歯がある。花期は3~5月。花は茎の上部の葉腋につく。花柄は長さ5 mmである。花冠は径4 mmで4裂して、帯紅白色で紫紅色の条線がある。蒴果はやや扁平な球形で中央がくびれる。近縁種のフラスパソウは茎、葉、萼に長毛が生える。

2. 分布

国外では東アジアに、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では西部、中部、東部に分布する。

3. 生育環境

各地の日当たりがよい土手や道路脇の草地、または石垣に生育する。

4. 生育状況

産地は広く点在し多い。産量は一部で群生するが少ない。現在は都市型住宅環境が多く、生育に適した環境が少ない。

5. 減少の主要因と脅威

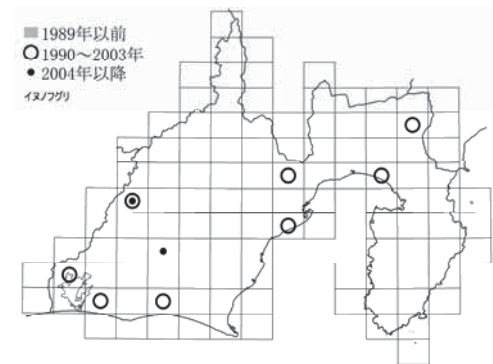
土地造成 (23) や草地の減少 (16) と植生遷移 (54) の圧力が主要因である。農薬汚染 (32) も脅威である。

6. 保護対策

昔ながらの里地の風景となる土手や土の道、そして民家の石積みを残すことも大切である。(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2004年4月3日 宮崎一夫



カリガネソウ *Tripura divaricate* (Maxim.) P. D. Cantino

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ1 mほど。茎は四角、上部で分枝する。葉は広卵形で長さ5~13 cm、幅2.5~8 cmで、0.5~4 cmの葉柄がある。花期は9~10月。花は唇形で青紫色、雄蕊は下向きに湾曲し、花柱とともに花外に突き出る。強い臭気がある。

2. 分布

国外では朝鮮半島、中国に、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低山地の谷間に生育する。

4. 生育状況

西伊豆町、静岡市、浜松市、湖西市などに生育する。産地と個体数は少なく、減少傾向がみられる。

5. 減少の主要因と脅威

生育地の山林伐採 (11) や林道拡幅 (24) などによって減少している。

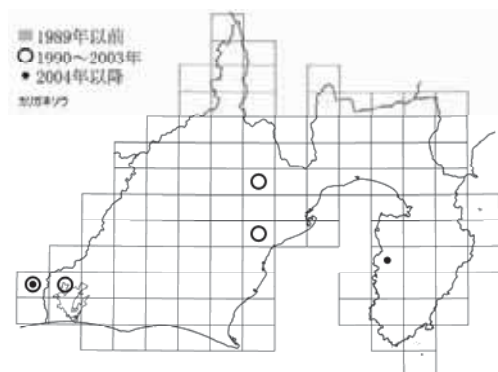
6. 保護対策

生育地である山林の保護を図りたい。

(内藤宇佐彦)



©2020 H. Kanishi
西伊豆町 2017年9月27日 香西博子



タチキランソウ *Ajuga makinoi* Nakai

(=エンシュウキランソウ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-b) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。茎は数本が斜上するか倒伏し、長さ5~20 cmになる。下部の1~2対の葉は鱗片状またはさじ状になる。花期は4~5月。茎の上部の葉腋に1~5個の濃い青紫色の唇形花を輪状につける。花冠は長さ15 mmで、上唇は直立し2~3 mmあって2裂する。

2. 分布

日本固有種で、国内では本州（関東地方西南部~東海地方）に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

山地の林縁や道路脇の砂礫地。

4. 生育状況

前回（2004年）調査時に比べると、林道脇の植生の発達などにより生育箇所・個体数は大幅に減少している。

5. 減少の主要因と脅威

林縁や道路脇の植生の発達（54）による生育環境の変化。

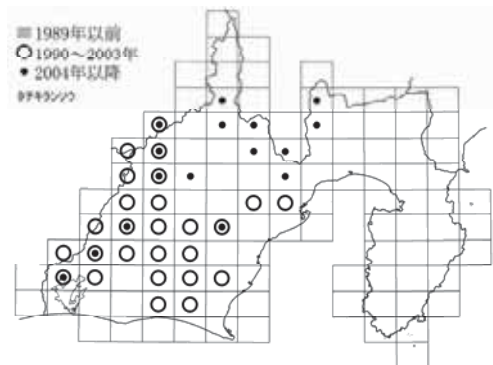
6. 保護対策

特になし。

(湯浅保雄)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2017年5月2日 宮崎一夫



マネキグサ *Loxocalyx ambiguus* (Makino) Makino

(=ヤマキセワタ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~100 cm。茎は四角形で直立し分枝する。稜には下向きに白毛が生える。葉はまばらに対生し、下部の葉は心形、上部の葉は卵形で長さ3~7 cm、粗鋸歯があり、表面や縁に白毛がある。花期は8~9月。萼は2唇形である。花は葉の脇に1~2個つけ、2唇形で長さ18~20 mm、花は暗紅紫色で白色の縁取りがある。近縁種のキセワタは萼が5浅裂する。またヤマジオウは高さが10 cm以下である。

2. 分布

日本固有種で、本州（栃木県以西の太平洋側）、四国、九州に分布する。県内では東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低山から温帯の山地の林内、林縁や谷沿いなどの湿った林床に生育する。

4. 生育状況

産地は各地に点在する。産量は少ない。小範囲に群生するが、環境悪化により弱々しく衰弱している個体もある。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移の圧力と樹冠の被陰（54）が主要因である。適湿な環境が失われることや園芸採取（41）も脅威である。

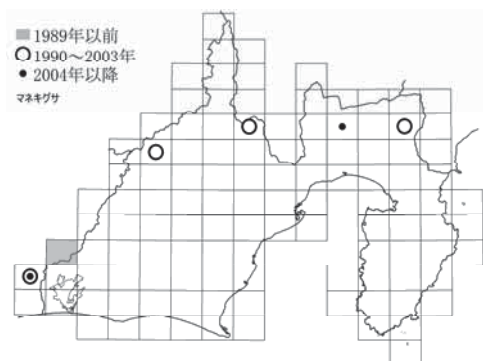
6. 保護対策

被陰となっている高木を択伐して、光条件の改善を図ることが重要である。

(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
富士宮市 2018年8月20日 宮崎一夫



ミゾコウジュ *Salvia plebeia* R. Br.

(=ユキミソウ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

シソ科 Lamiaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

越年草。高さ30~50 cm。根出葉は越冬し花時にはない。茎葉は対生し長楕円形で長さ3~6 cm、表面は脈がへこみ、細かいしわが目立つ。花期は5~6月。枝先に花穂を出し、淡紫色の小さな唇形花を多数つける。花冠は長さ4~5 mmで、下唇には紫色の斑点がある。雄蕊の葯隔の上下の長さが同じである。近縁種のアキノタムラソウは花期が7月以降で、葉は羽裂して、葯隔の上側は花糸状に長く花外に突き出る。

2. 分布

国外では東南アジア、マレーシア、インド、オーストラリアに、国内では本州、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

低地の田の畔や休耕田に生育する。河川敷や湿った道端にも見られる。

4. 生育状況

産地は広範囲にあり多い。産量は少ない。産量は年による消長があり、群生することもあるが概して減少している。

5. 減少の主要因と脅威

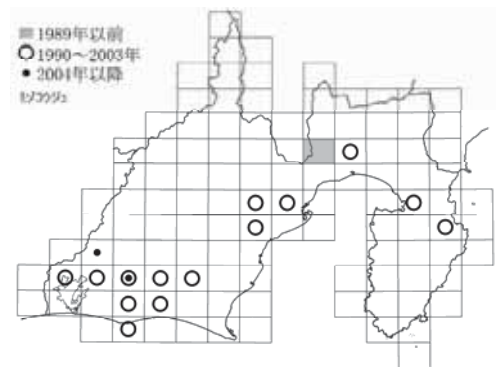
農薬汚染 (32) や植生遷移 (54) が主要因である。乾燥化 (71) の影響も見られ脅威である。

6. 保護対策

産地の圃場整備や河川開発では、可能な限り生育への悪影響に配慮することが重要である。(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2009年5月19日 宮崎一夫



オオヒキヨモギ *Siphonostegia laeta* S. Moore

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

ハマウツボ科 Orobanchaceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

一年草。半寄生植物。高さ30~70 cm。全体に開出した腺毛が密に生える。茎は斜上する。葉は対生し、三角状卵形で大きな裂片に裂ける。花期は8~9月。花は上部の葉腋に1個ずつつける。萼は細い筒形で長さ2~2.2 cm。花冠は灰黄色で長さ2.8 cm。上唇は先が切形で2裂しない。近縁種のヒキヨモギは全体に腺毛がなく短毛が生える。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州 (関東地方以西)、四国に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山地の林道脇や崖地のススキなどの草本類にまじって生育する。

4. 生育状況

産地は西部に多い。産量は数株ずつ散生している。

5. 減少の主要因と脅威

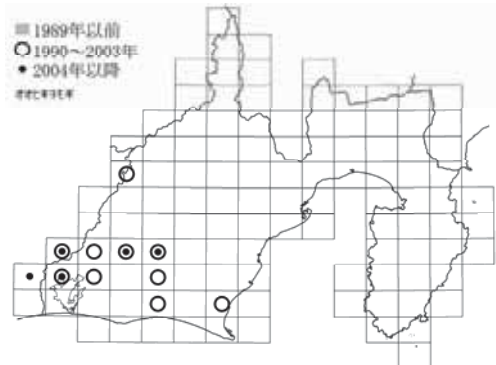
植生遷移 (54) や林道整備 (24) により株数が減少している。

6. 保護対策

草原や草地は種の多様性の宝庫であるので保全すべきである。(宮崎一夫)



©2020 K. Miyazaki
浜松市 2013年9月7日 宮崎一夫



サワギキョウ *Lobelia sessilifolia* Lamb.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更コード 9

キキョウ科 Campanulaceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-III部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ 50~100 cm。茎は太く中空で分枝はなく、切ると白汁が出る。葉は多数が互生し披針形で長さ 4~7 cm、上部のものほど小型になる。花期は 8~9 月。茎上部の総状花序に多数の花をつける。花冠は濃紫色で長さ 2.5~3 cm、2唇形で上唇は 2 深裂して、下唇は 3 浅裂する。蒴果は球形で長さ 8~10 mm。近似種のミゾカクシは高さが 10~15 cm で花の長さが 1cm。

2. 分布

国外では千島列島、サハリン、台湾、朝鮮半島、中国東北部、東シベリアなどに、国内では北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯の原野や丘陵地の湿地に生育する。しばしば耕作放棄水田にも生育する。

4. 生育状況

産地は点在して少ない。産量は群生から散生する。植生遷移の圧力を受けている。園芸採取により減少している。

5. 減少の主要因と脅威

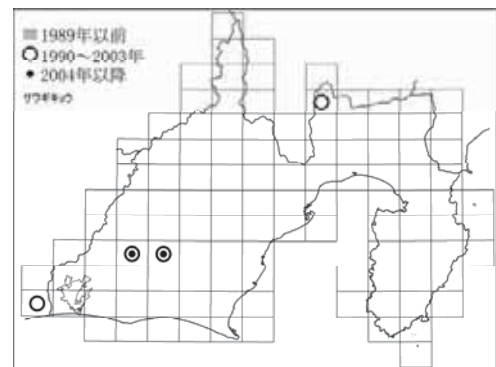
湿地の開発 (15) と植生遷移 (54) が主要因である。園芸採取 (41) も脅威である。

6. 保護対策

湿地における種の多様性を確保するためにも、開発行為を回避して保全することが重要である。(宮崎一夫)



浜松市 2005年9月17日 宮崎一夫



タテヤマギク *Aster dimorphophyllus* Franch. et Sav.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~50 cm。地下茎で繁殖する。茎は屈曲し、上部でわずかに分枝する。葉は卵円形で基部は心臓形。長さ 3 cm ほどで、大きな歯状のものから、掌状または羽状中裂するものまで変異が大きい。花期は 8~10 月。頭花は緩い散房状につき、径は約 2~3 cm。舌状花は白色。

2. 分布

日本固有種で、本州 (神奈川県、静岡県)、四国に分布する。県内では東部、中部に分布する。

3. 生育環境

温帯の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

これまで個体数は比較的多かったが、近年はシカによる食害で急激に減少している。

5. 減少の主要因と脅威

シカによる食害 (52-1) が減少の主要因である。

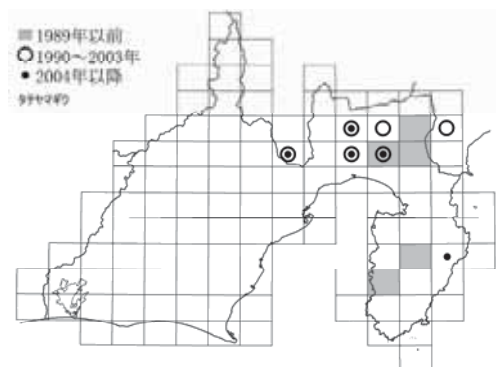
6. 保護対策

防護柵の設置が必要である。

(湯浅保雄)



長泉町 2013年8月24日 内藤宇佐彦



イズカニコウモリ *Parasenecio amagiensis* (Kitam.) H. Koyama

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~60 cm。細い地下茎を伸ばし繁殖する。葉はふつう2個。下面に毛がある。下部の葉は腎形、先は丸くあるいは鋸歯がある。長さ13 cm、幅22 cm、基部は深い心形、葉柄は長さ12 cmほど。基部は抱茎し、葉鞘となる。花期は11~12月。総状円錐花序に多数の頭花をつける。花柄に縮毛を密生する。

2. 分布

日本固有種で、本州(神奈川県、静岡県)に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖帯から温帯下部の広葉樹林やスギ人工林の肥沃な林床。

4. 生育状況

シカの忌避植物で、他の植物がないスギ人工林などの林床に高密度で群生している。

5. 減少の主要因と脅威

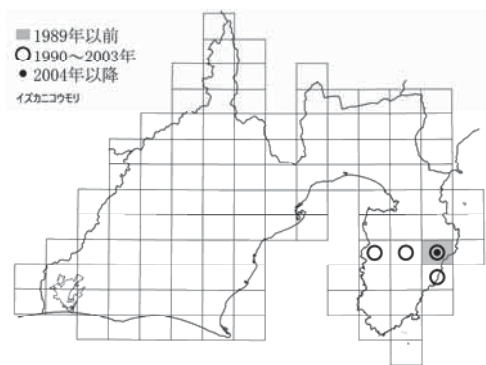
森林の伐採(11)による生育環境の変化が減少の主要因である。シカの不嗜好性植物なので、現在は他の植物がなくなった林床に、イズカニコウモリだけが残って群生する状況を目にするが、シカの食餌植物が減少している現状では、何時、食害に合うか時間の問題であろう(52-1)。

6. 保護対策

森林の適切な管理が必要である。(湯浅保雄)



伊豆市 2017年9月27日 香西博子



モリアザミ *Cirsium dipsacolepis* (Maxim.) Matsum.

(=ゴオボウアザミ、ヤブアザミ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b, c) 変更コード 1, 3

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 要注目種 (N-Ⅲ部会注目種) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ50~100 cm。下部の葉は長い柄があり、柄を含めて長さ15~20 cm、葉身は長楕円形または卵形で洋紙質。しばしば羽状に切れ込む。花期は9~10月。頭花は枝先に単生し、花時には直立する。総苞は扁球形。長さ2~3 cm、幅3~4 cm、くも毛がある。総苞片は6~7列で外辺は開出する。花冠は帯紫色、または紅紫色。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

乾いた山地の草原。

4. 生育状況

富士山西麓の朝霧高原に生育しているが、個体数は非常に少ない。

5. 減少の主要因と脅威

草原の管理放棄(53)とシカによる食害(52-1)が減少の主要因である。

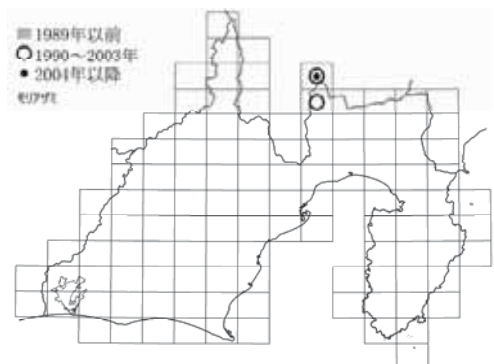
6. 保護対策

生育に適した草原の維持管理が必要である。

(佐野 弘・湯浅保雄)



長野県 2019年9月26日 室伏幸一



ワタムキアザミ *Cirsium tashiroi* Kitam.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~50 cm。根出葉は花時にも生存して羽状深裂である。葉は長楕円形で長さ 20~35 cm、羽状に深裂する。花期は 9~10 月。頭花は淡紅色で茎頂につき、斜め下向きに開く。苞葉は 2~4 個あり披針形で長さ 1~2 cm。総苞は筒形で長さ 16~18 mm、粘りはない。総苞片は 8~9 列、斜上して先端は反曲する。近縁種のスズカアザミは高さが 70~80 cm で総苞は粘り、総苞片は 11~12 列である。

2. 分布

日本固有種で、本州（静岡県から滋賀県）に分布する。県内では西部に分布する。静岡県は東限自生地である。

3. 生育環境

温帯山地の林内や林縁に生育する。

4. 生育状況

産地は西部の山地に局限する。産量は多い。生育状況は植生遷移の圧力を受けてやや衰退している。

5. 減少の主要因と脅威

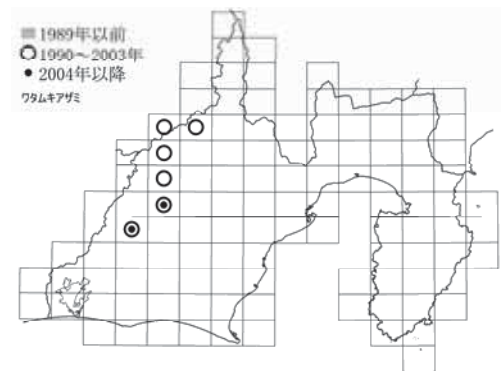
森林伐採 (11) や林道などの開発 (24) が主要因である。植生遷移 (54) も脅威である。

6. 保護対策

産地の開発行為は細心の注意が必要である。植生遷移を抑制することが重要である。(宮崎一夫)



浜松市 2011年10月3日 宮崎一夫



イズハハコ *Conyza japonica* (Thunb.) Less.

(=ワタナ)

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

一年草~越年草。高さ 50 cm ほど。全体に灰白色の軟毛が多い。葉は下部にややロゼット状に集まり、長楕円形で円頭、長さ 5~10 cm で、基部は茎を抱く。花期は 3~6 月。頭花は長球~円柱形、径約 8 mm、茎頂に密集してつく。

2. 分布

国外では中国、マレーシア、インド、アフガニスタンに、国内では本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

道路の切土面や崖地など半裸地に生育する。

4. 生育状況

各地に広く生育する。よく開花結実し種子は風で広がる。生育に消長がある。

5. 減少の主要因と脅威

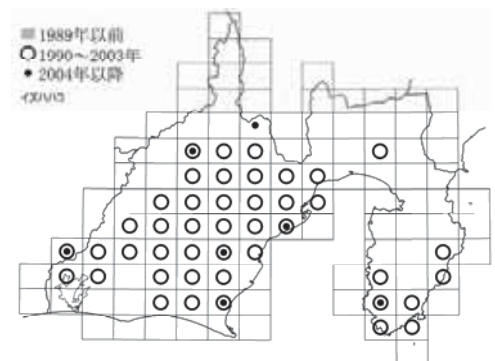
道路工事 (24) や土地造成 (23) などによる生育地の消失や草地の遷移進行 (54) による被陰で減少している。

6. 保護対策

生育地の保護が必要であるが、半裸地状の環境に生育する植物なので草刈りなど植生遷移の抑制が大事である。



浜松市 2016年6月12日 宮崎一夫



(内藤宇佐彦・宮崎一夫)

カワラニガナ *Ixeris tamagawaensis* (Makino) Kitam.

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ15~30 cm。根茎から幅7~10 mmほどの細長い葉と花茎を多数束生する。葉先は尖る。花期は5~8月。頭花は黄色、春先は一つの花茎に1個、夏にはやや小型の花を多数つける。

2. 分布

日本固有種で、本州(中部地方以北)に分布する。県内では中部と西部に分布する。

3. 生育環境

適度に荒れて、適度にコケ、小型草本などの生育する安定した河原の砂礫地に生育する。

4. 生育状況

安倍川、大井川、天竜川とその支流に生育する。

5. 減少の主要因と脅威

河川改修、砂利採取(13)などは脅威である。

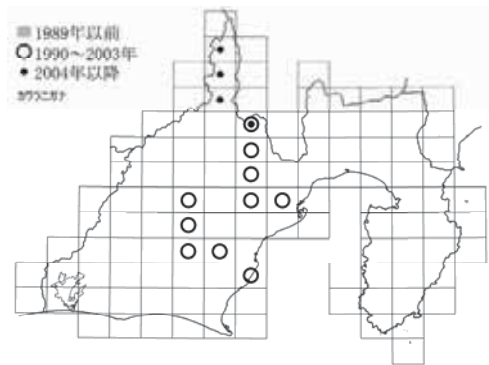
6. 保護対策

無秩序な砂利採取は、制限する必要がある。

(西口紀雄)



静岡市 2016年5月14日 湯浅保雄



タカネコウリンカ *Tephroseris takedana* (Kitam.) Holub

静岡県カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) (要件-a, b) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 準絶滅危惧 (NT) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ20~50 cm。茎は直立し葉とともに白綿毛がある。根出葉は花時にも生存し、葉身は長楕円形で長さ2.5~6 cm。花期は7~8月。頭花は茎頂に4~5個が散形状につき径2~2.5 cm。黄色で紫色を帯びる。総苞は筒形で長さ0.7~1 cm、黒紫色が目立つ。舌状花は長さ10 mm。瘦果は円柱形で長さ4 mm。冠毛は汚白色で長さ6~7 mm。近縁種のコウリンカは舌状花の長さが12~22 mmである。

2. 分布

日本固有種で、本州(長野県、山梨県、静岡県)に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布する。

3. 生育環境

高山帯の尾根から斜面の砂礫地や草地に生育する。

4. 生育状況

産地は南アルプスの広範囲である。産量は多い。群生して開花株も多い。しかし植生遷移によりやや生育が悪い産地もある。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移(54)が主要因である。登山者や撮影者による踏圧(51)が脅威である。

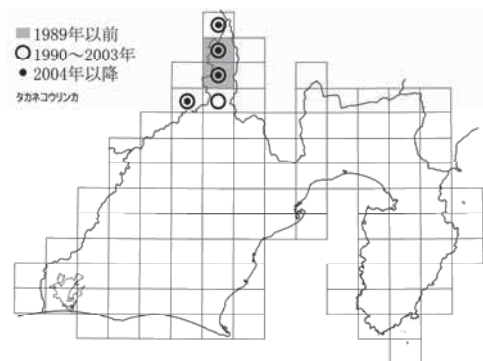
6. 保護対策

登山道の迂回整備や登山者のマナーにより踏圧を回避する。

(宮崎一夫)



静岡市 2004年8月7日 宮崎一夫



ヒメウラジロ *Aleuritopteris argentea* (S. G. Gmel.) Fée

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-b, e) 変更なし

イノモトソウ科 Pteridaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

常緑性シダだが、北方では夏緑性のシダ植物である。根茎は斜上、葉柄下部とともに披針形茶褐色の鱗片をもつ。葉は20 cm前後に達し、葉柄の方が長い。葉柄は茶褐色。葉身は五角形で、最下羽片は2回羽状、上部は単羽状。葉裏は粉白である。孢子嚢群は辺につき、連続する包膜で覆われる。

2. 分布

国外では朝鮮半島、モンゴル、ロシア東部、台湾、中国、フィリピンに、国内では本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では中部に記録がある。

3. 生育環境

山地の向陽の岩上や、路傍の石垣の間などに着生する。県内の産地は城跡の石垣である。

4. 生育状況

県内では静岡市の駿府城跡石垣のみに知られているが、今日では確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取 (41) のおそれがあるが、栽培は困難とされる。

6. 保護対策

生育地の再確認が急務である。再確認がなされれば、生育地の早急な保護対策による生育地確保の必要がある。

(細倉哲穂・中池敏之)



静岡市 1964年10月4日 細倉哲穂



ヒメバラモミ *Picea maximowiczii* Regel ex Carrière

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-b, e) 変更なし

マツ科 Pinaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

常緑高木。高さ約40 m、径1.2 mになる。樹皮は灰~灰褐色。葉は線形で長さ10~13 mm、幅1.5 mm。葉の断面は四角~菱形。4面に白色の気孔帯がある。花期は5~6月。毬果は10月に熟し、無柄で下垂する。楕円状円筒形で長さ3~6 cm、径1.5 cm。県内に生育するハリモミ (長さ8~10 cm、径4.5 cm)、イラモミ (長さ6~12 cm、径3 cm) の毬果はこれより大きい。基準産地は富士山。

2. 分布

日本固有種で、本州中部 (秩父・八ヶ岳西岳・南アルプスの仙丈岳及びその周辺) に分布する。県内では東部に分布する。

3. 生育環境

亜高山帯の山地。

4. 生育状況

富士山に生育するとの情報もあるが不明。

5. 減少の主要因と脅威

不明 (99)。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育地を含む広い範囲の森林を保全すること。

(湯浅保雄)



長野県 2016年5月14日 加藤 徹



ヒメコウホネ *Nuphar subintegerrima* (Casp.) Makino

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-a, d) 変更なし

スイレン科 Nymphaeaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

浮葉性の多年草。根茎はよく発達し、水底の泥の中を横に這う。葉は根茎の先端に束生する。水上葉と水中葉とがあり、水上葉は水面に浮かび、広卵形で長さ6~10 cm、幅5~8 cm。花期は6~9月。花は花柄の先に1個つけ径3~4 cm。萼片は5個で黄色の花弁状、花弁は萼片より短く、へら状で多数ある。類似のコウホネは、葉が長さ20~30 cmと大きく、また水上葉が水の上に抜き出るので区別できる。

2. 分布

日本固有種で、本州、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

湧水のあるため池や河川の淀み、水路など。

4. 生育状況

牧野富太郎は植物学雑誌(1910)に浜松市で採集された標本を引用しているが、詳しい場所是不明である。また、その後の確認情報もない。

5. 減少の主要因と脅威

河川の整備(13)による生育環境の変化が主な減少の要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が見つかったら、最適な生育環境を維持すること。
(湯浅保雄)



岐阜県 2015年6月11日 室伏幸一



テンリュウカンアオイ *Heterotropa draconis* Sugim.

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-a, d) 変更なし

ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。カントウカンアオイによく似る。葉は卵形で先は鋭形、長さ4~7 cm、萼裂片は萼筒より長く長三角形で表面に毛がある。萼筒内も有毛。花期は12~1月。

カントウカンアオイとスズカカンアオイからは、萼筒内部に毛があることで区別される。しかし、現在はその存在は認められていないようである。基準標本と記載文の有無を確認する必要がある。

2. 分布

日本固有種で、本州(静岡県)に分布する。県内では西部(旧天竜市)に分布する。

3. 生育環境

不明。

4. 生育状況

不明。

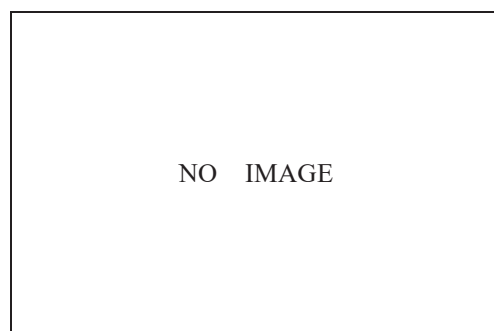
5. 減少の主要因と脅威

不明(99)。

6. 保護対策

生育が確認されたら環境に配慮して保護すること。

(湯浅保雄)



タマノカンアオイ *Asarum tamaense* Makino

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-a, b) 変更なし

ウマノスズクサ科 Aristolochiaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。葉は卵円～広楕円形、長さ5～15 cm。表面は暗緑色で光沢は弱く、脈は陥入するがアマギカンアオイほど著しくはない。花期は4～5月。花は暗紫色で形態はほとんどアマギカンアオイと同じ。径3～4 mm。

2. 分布

日本固有種で、本州（関東地方南西部）に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖帯の樹林地。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）に伊豆半島西部の妻良での確認記録があるが、その後の情報はない。今回の調査でも確認できなかった。

5. 減少の主要因と脅威

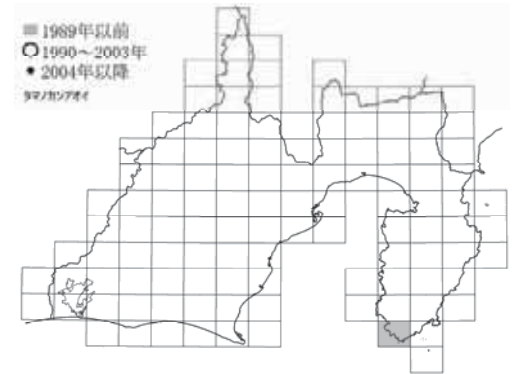
不明 (99)。

6. 保護対策

県内の記録には標本の裏付けはなく、確認地域からみてアマギカンアオイ（シモダカンアオイを含む）の誤認の可能性が強い。生育が確認されたら、環境に配慮して保護すること。
(湯浅保雄)



© PIXTA



スエヒロアオイ *Asarum dilatatum* (F. Maek.) T. Sugaw.

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-ad) 変更なし

ウマノスズクサ科 Crassulaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧ⅠA類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。葉は薄く卵形または卵状楕円形。長さ6～11 cm、幅4～7 cm。表面は光沢がなく、白斑がはいる。縁周辺に短毛が散生する。花期は10～11月。花は褐色、萼筒が上方に広がった短い筒型で、萼筒入り口も広く、内部の雌雄蕊はよく見える。長さ4～5 mm、径8～10 mm。萼裂片は広卵形で長さ6～8 mm。無毛。以前はヒメカンアオイの変種とされていたが、今は独立種となっている。

2. 分布

日本固有種で、本州（近畿地方）に分布する。県内では伊豆、西部に分布する。

ヒメカンアオイは西部に広く分布する。県内の過去の2地点での確認情報は、ヒメカンアオイの誤認の可能性もあるので、標本での検証が必要である。

3. 生育環境

山地帯の広葉樹林内。

4. 生育状況

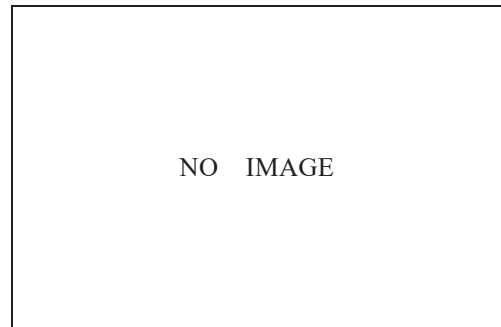
静岡県植物誌（1984）に伊豆西海岸と旧大須賀町の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

不明 (99)。

6. 保護対策

生育が確認されたら、生育環境に配慮して保護すること。
(湯浅保雄)



アオガシ *Machilus japonica* Siebold et Zucc. ex Blume

(=ホソバタブ)

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-b, c) 変更なし

クスノキ科 Lauraceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

常緑高木。当年枝は緑色だが前年枝は赤褐色のあらい樹皮をつける。芽鱗の縁には灰白色の細毛を列生する。葉は薄い革質で、長さ8~15 cm、幅2~3.5 cm。花期は4~5月。花序は新枝に腋生し、円錐形で長い柄があり、分枝は横に広がる。花は黄緑色。果実は径約1 cmで黒紫色に熟す。類似のタブノキの葉は革質で長さはほぼ同じだが、幅が3~7 cmと広い。

2. 分布

国外では台湾、朝鮮半島南部、中国南部に、国内では本州(関東・中部地方以西)、四国、九州、琉球に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の低山、丘陵地。

4. 生育状況

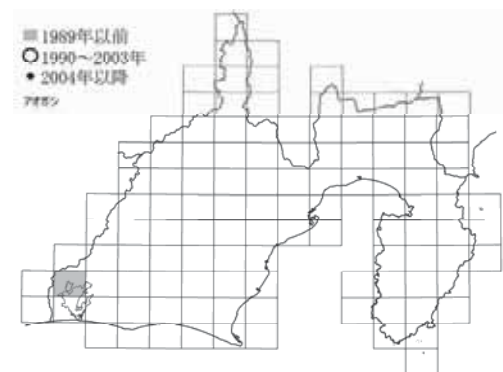
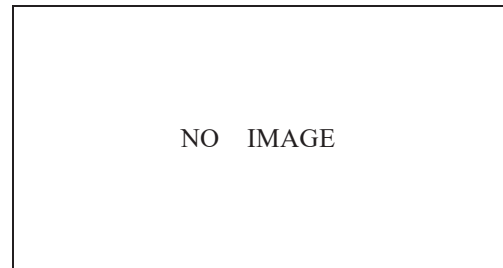
県西部に記録があるが、情報が少なく、タブノキとの誤認も考えられるので検討が必要である。

5. 減少の主要因と脅威

森林伐採(11)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら、周辺の森林とともに保存したい。(湯浅保雄)



ウミヒルモ *Halophila ovalis* (R. Br.) Hook. f.

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-a, b) 変更なし

トチカガミ科 Hydrocharitaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。根茎は横に這い、径約1 mm、各節から根を1本出す。節から出た鱗片葉の腋から2個の葉を水中に出す。葉には1~10 cmの葉柄があり、葉身は卵~長楕円形で、長さ1~4 cm、花期は不定期。雌雄異株、葉柄の基部に鞘状の托葉があり、その中に1個の花をつけ水中で開花する。花には花弁がなく、萼片は3個。雄花の萼片は透明で長さ4 mm、幅2 mm、雄蕊は3個。雌花は卵形の子房の上に3~5 mmの萼筒がある。果実は卵球形で長さ約1 mm。

2. 分布

国外ではインド洋から西太平洋の沿岸に、国内では本州北部から琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

砂や砂泥からなる海底に生える。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)には伊豆半島西岸、下田市、西浦海岸の記録があるが、その後の確認の記録は少ない。生育地が海底のため調査が十分行われず、そのことが情報不足の一因である。

5. 減少の主要因と脅威

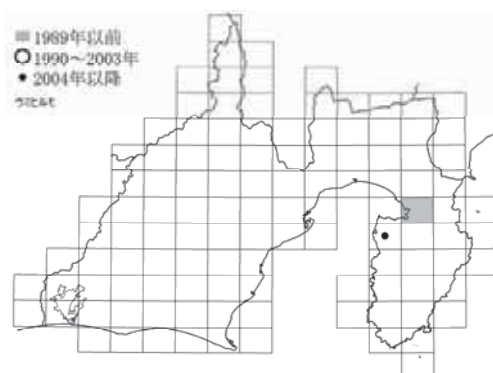
海岸の開発と整備(14)による生育環境の破壊が減少の主要因であろう。

6. 保護対策

生育地が確認されたら、生育環境を破壊しないように方策をとること。(湯浅保雄)



沼津市 2017年5月28日 加藤 徹



タチアマモ *Zostera caulescens* Miki

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-a, c, d) 変更なし

アマモ科 Zosteraceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。根茎はやや扁平で直径2~6 mm、横に這う。葉は長さ60 cmほどになる。幅5~11 mm、5~11本の脈がある。花茎は直立し、1~7 m以上にもなり、下部に花序をつけ、上部は葉のみとなる。花序は長さ6~8 cm。花期は4~6月。種子は長楕円形、長さ約4 mmで平滑。類似のアマモは葉幅10~15 cmで5~7本の脈があり、種子には縦に稜がある。

2. 分布

国外では千島列島、朝鮮半島に、国内では北海道から本州に分布する。県内では伊豆に分布する。現在では太平洋側の分布範囲は神奈川県以北となっている。

3. 生育環境

水深6~17 mの内湾の海底の砂泥地に生える。

4. 生育状況

植物学雑誌 第47巻に三木氏が、県内の分布を報告しているが、その後、確認の記録がなく生育状況は不明である。

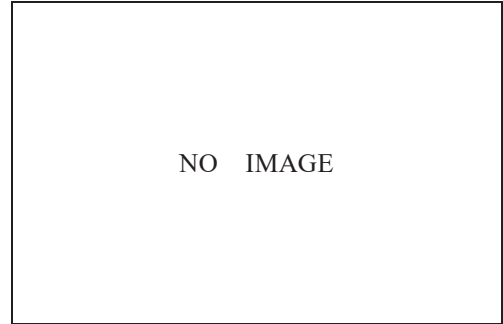
5. 減少の主要因と脅威

海岸開発(14)などで減少していることが考えられるが、水深6 m以上の海底に生育しているため確認が困難で、県内での増減は不明である。

6. 保護対策

生育の可能性のある海岸の開発は極力避けること。

(湯浅保雄)



コバノヒルムシロ *Potamogeton cristatus* Regel et Maack

(=トゲミズヒキモ)

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件-b, c) 変更なし

ヒルムシロ科 Potamogetonaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

沈水~浮葉性の多年草。水中葉は糸状で長さ4~6 cm、幅1 mm以下。浮水葉は長楕円形で葉身の長さは20~25 mm、幅は5~10 mm。花期は5~9月。浮水葉の葉腋から6~10 cmの穂状花序を出し、淡黄緑色の小さな両生花をつける。花被はなく、4個の葯隔付属突起が花被状に発達し葯を覆っている。雄蕊4本、心皮は4個。類似のヒルムシロの浮水葉は、葉身の長さ5~10 cm、幅2~4 cmと大きいので容易に区別できる。

2. 分布

国外ではウスリー、中国、朝鮮半島、台湾に、国内では本州、四国、九州に分布する。県内では中部に分布する。

3. 生育環境

池沼や水田などの溝に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に焼津市の記録が載っているが、その後の確認記録はない。

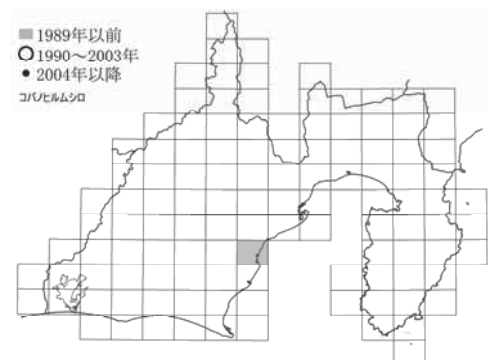
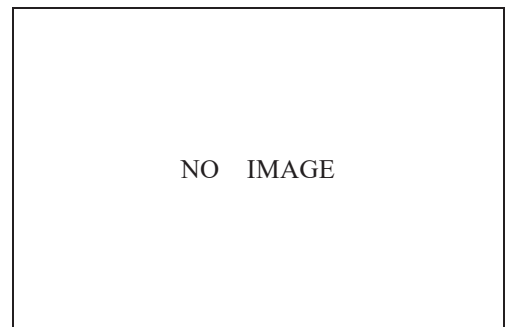
5. 減少の主要因と脅威

池沼の開発(12)や水田の耕地整備(15)による生育環境の消失が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が見つかったら、最適な生育環境を維持すること。

(湯浅保雄)



ササバラン *Liparis odorata* (Willd.) Lindl.

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 b) 変更なし

ラン科 Orchidaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B 類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 20~40 cm。偽球茎は卵形で長さ 2 cm。葉は 3~5 個が下部に集まり茎を抱き、狭長楕円形で長さ 8~16 cm、縦皺がある。花期は 7~8 月。花は黄緑色から汚紫色で、茎の上半部に多数つく。萼片は披針形。側花弁は線形。唇弁は倒卵形で長さ 6 mm、反曲する。近縁種のクモキリソウやコクランは本種と花が似るが、葉が卵状楕円形である。

2. 分布

国外では中国、台湾、ヒマラヤ、インドなどに、国内では本州（栃木県以南）、四国、九州、琉球に分布する。県内では伊豆に分布する。

3. 生育環境

暖温帯の日当たりがよい痩せた草地に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には修善寺の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

植生遷移（54）が主要因である。園芸採取（41）も脅威である。

6. 保護対策

記録がある生育地の保全を図り、生育が確認された場合は、環境に応じた善処を図り、産地情報の公開は慎重な配慮が必要である。（宮崎一夫）



静岡県(栽培) 2017年7月12日 西口紀雄



ウラジロギボウシ *Hosta hypoleuca* Murata

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 b) 変更なし

クサスギカズラ科 Asparagaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧 I B 類 (EN)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30~40 cm。葉は落葉性で長柄があり葉身は卵形で大きく長さ 20~40 cm、質は厚く基部は心形、上面は淡緑色、裏面は粉白色で脈は隆起しない。花期は 7~8 月。苞は楕円状船底形で長さ 1.8~2.2 cm、白色で開花時に開出せず萎れない。花茎は長く総状花序をなす。花被は長さ 3.5~4.5 cm、白色で内面中央部は帯紫色。雄蕊は花筒から外に出る。近縁種のおオバギボウシは、葉裏が淡緑色で脈が隆起して、苞は開出する。

2. 分布

日本固有種で、本州（愛知県、静岡県）に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

山地の谷沿いの湿った石灰岩の岩壁に生育する。

4. 生育状況

静岡県植物誌（1984）には水窪の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

園芸採取（41）が主要因である。生育場所が局限（61）することも脅威である。

6. 保護対策

自生していた記録がある潜在的な生育地を保全する。今後も継続して探索する必要がある。（宮崎一夫）



愛知県 1976年8月2日 内藤宇佐彦



タカネイ *Juncus triglumis* L.

静岡県カテゴリ 情報不足 (DD) (要件 b) 変更なし

イグサ科 Juncaceae

[2004年版カテゴリ 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリ 準絶滅危惧 (NT)]

1. 種の解説

多年草。高さ6~15 cm。矮性で叢生する。茎は細い円柱形。葉は3~4個が下部につき先が硬質化して鈍形、円筒状針形で長さ1~5 cm、鞘部の耳片は大型。花期は7~8月。頭花は1個が頂生し2~3花からなる。花被片は卵状披針形で長さ4 mm、褐色。近縁種のイトイは花被片が狭披針形で白色である。

2. 分布

国外ではサハリン、中国、朝鮮半島、ヒマラヤ、ヨーロッパに、国内では北海道、本州の高山帯に分布する。県内では中部(南アルプス)に分布しており、静岡県は南限自生地である。

3. 生育環境

高山帯の湿り気のある砂礫地や疎草地に生育する。

4. 生育状況

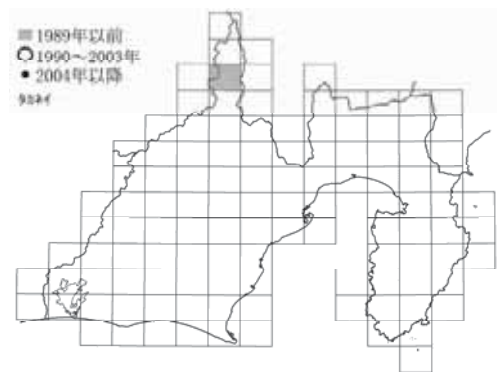
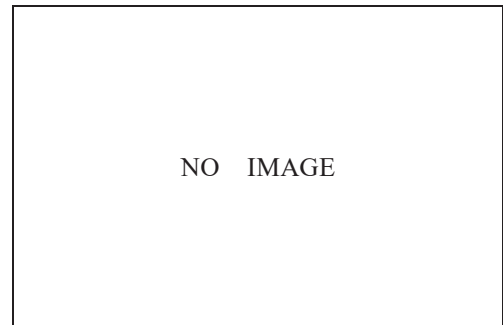
静岡県植物誌(1984)には南アルプス東岳の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

生育地が局限(61)していて株数も少ないと思われる。

6. 保護対策

再確認された場合は登山道を迂回するなど産地に応じた保護対策を施す。
(宮崎一夫)



ミズタカモジ *Elymus humidus* (Ohwi et Sakam.) A. Löve

(=ミズタカモジグサ)

静岡県カテゴリ 情報不足 (DD) (要件 a, b, c) 変更なし

イネ科 Poaceae

[2004年版カテゴリ 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ40~60 cm。茎は束生し、倒伏した節から根と枝を出し、翌年の新しい株となる。葉は長さ7~15 cm、幅3~7 mm。花期5~7月。穂状花序は細く直立。小穂は花期にも花軸に圧着、5~7小花からなり、はじめ淡緑色で成熟すると紫褐色に染まる。花穂が成熟すると、一番上の節から葉をつけたまま脱落する。

日本固有種と中国原産の帰化植物という二つの見解がある。

2. 分布

国外では中国に、国内では本州、九州に分布する。県内では東部、西部に分布する。

3. 生育環境

田植え前の水田。

4. 生育状況

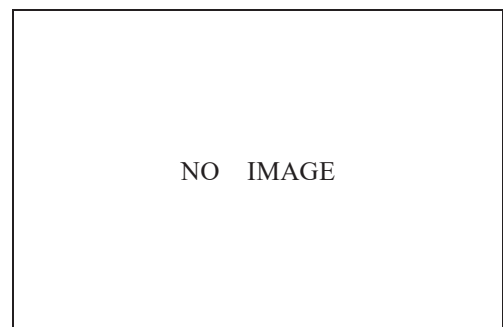
静岡県植物誌(1984)に三島市、小笠山・三島市に帰化との記載があるが、その後の情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

水田の管理方法の変化(71)と農薬の使用(32)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育が確認されたら生育環境に配慮して保護すること。
(湯浅保雄)



チツパベンケイ *Hylotelephium sordidum* (Maxim.) H. Ohba var. *sordidum*
(=ハマベンケイソウ)

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 b) 変更なし

ベンケイソウ科 Crassulaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー なし]

1. 種の解説

多年草。高さ10~25 cm。葉はふつう互生し、卵~卵円形、長さ2.5~4.5 cm、汚赤紫色を帯びる。葉柄はないが、基部は急に細まり柄状となる。花期は9~10月。花序は散房状で球形、淡黄緑色。

2. 分布

日本固有変種で、本州(中部と北部)に分布する。県内では東部(富士山)に分布する。

3. 生育環境

山地の岩上、稀に樹上などに着生する。屋根の上に生えることもある。

4. 生育状況

情報が少なく検討を要する。

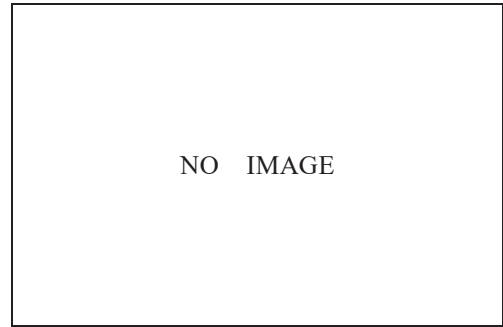
5. 減少の主要因と脅威

不明(99)。

6. 保護対策

特になし。

(西口紀雄)



イワレンゲ *Orostachys malacophylla* (Pall.) Fisch.

var. *iwarenge* (Makino) H. Ohba

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 b) 変更なし

ベンケイソウ科 Crassulaceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧II類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ10~20 cm。全体が白緑色を帯びる。径10 cm位のロゼット状に広がる。ロゼットの葉は長さ4~6 cm、倒披針形、先端は尖らない。花期は9~11月。花弁は白色、狭倒披針形、長さ6~8 mm。葯は黄色。

2. 分布

日本固有変種で、本州(関東地方以西)、九州に分布する。県内では東部と中部に分布する。

3. 生育環境

海岸や海辺の岩上や断崖に生育する。屋根の上に生えることもある。

4. 生育状況

栽培もされている。県内のものは、自生か逸出か判断が難しい。

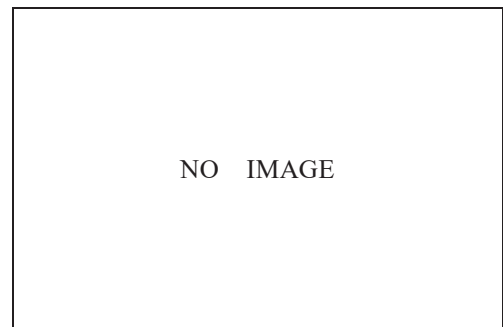
5. 減少の主要因と脅威

園芸採取(41)が一番の脅威である。また、人家から非意図的に逸出がおりやすい。

6. 保護対策

園芸採取防止のキャンペーンも必要である。逸出防止の呼びかけも同様に必要である。

(西口紀雄)



モミジカラスウリ *Trichosanthes multiloba* Miq.

静岡県カテゴリ 情報不足 (DD) (要件 a, d) 変更なし

ウリ科 Cucurbitaceae

[2004年版カテゴリ 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリ なし]

1. 種の解説

ツル性の多年草。葉は広卵形あるいは五角状卵形で基部は深い心形。5~9の裂片に中・深裂し、両面に短毛を散生し、点状の突起がある。雌雄異株。花期は6~8月。雄花序は長さ10~25 cm。雌花は単生する。花は直径5~6 cmで5裂し、先は糸状に分裂する。果実は液果で長さ10 cmに達する。種子は10 mmほどで広楕円形、黒褐色。

2. 分布

日本固有種で、本州(伊豆半島以西)、四国、九州に分布する。県内では伊豆、東部、中部、西部に分布する。

3. 生育環境

暖帯の山地の林縁部。

4. 生育状況

静岡県植物誌(1984)に、伊豆の河津町、南伊豆町、東部の三島市、中部の藤枝市、西部の小笠郡での記録があるが、前回(2004年)調査でも、今回の調査でも確認されていない。

5. 減少の主要因と脅威

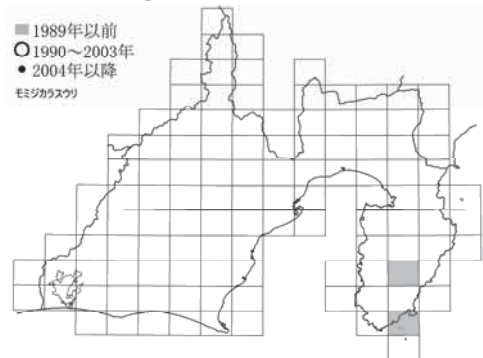
山林の開発(11)が減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

カラスウリの誤認の可能性もあるので、標本の再検討が必要である。生育地が確認された場合は、生育環境の保全を行う。(湯浅保雄)



©フォトライブラリ



ミズスギナ *Rotala hippuris* Makino

静岡県カテゴリ 情報不足 (DD) (要件 b, e) 変更なし

ミソハギ科 Lythraceae

[2004年版カテゴリ 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリ 絶滅危惧 I A 類 (CR)]

1. 種の解説

多年草。根茎は細く水底の泥の中を横に這う。茎は多くの節のある円柱形でまっすぐに伸びて、上部は水面の上に立ち上がる。葉は5~12個輪生し、沈水葉は糸状線形、水上葉は線形で長さ0.5~1 cm、幅0.6~1 mm。花期は9~10月。花は白色で細かく、水面上に伸びた部分の葉腋に単生する。萼4個、花弁4個。萼筒は長さ約0.6 mm、裂片は3角形。花弁は萼の縁につく。

2. 分布

日本固有種で、本州(関東地方から近畿地方南部)、四国、九州に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

湖沼やため池、湿地に生育する。

4. 生育状況

日本水草図鑑(1994)の分布図には、静岡県内の産地が示されているが、詳細な場所と生育状況は不明である。また、その後、確認された情報は得られていない。

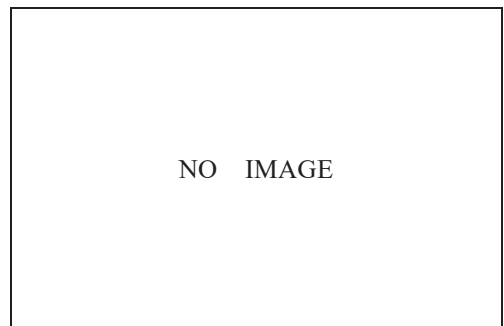
5. 減少の主要因と脅威

池沼や湿地の開発(12、15)と水田の耕地整備(15)などが減少の主要因と考えられる。

6. 保護対策

生育地が確認できたら、最適な生育環境を保全すること。

(湯浅保雄)



イナベアザミ *Cirsium magofukui* Kitam.

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件b) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 70~150 cm。根出葉は花時にはない。花期は 10~11 月。頭花は長柄の先に點頭してつき径 12~21 mm、総苞片は反曲し線状披針形で先は長鋭尖頭、縁に刺がある。

2. 分布

日本固有種で、本州（滋賀県、三重県、岐阜県、福井県）に分布する。県内では西部（水窪）に分布する。

3. 生育環境

深山の林下に生育する。

4. 生育状況

今のところ確実な情報が得られない。記録があるが再調査が必要である。

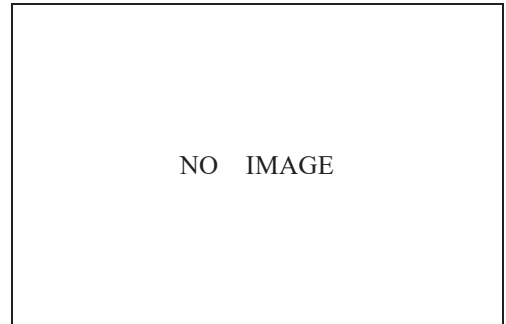
5. 減少の主要因と脅威

不明 (99)。

6. 保護対策

特になし。

(内藤宇佐彦)



ドロニガナ *Ixeridium dentatum* (Thunb.) Tzvelev

subsp. *kitayamense* (Murata) J. H. Pak et Kawano

静岡県カテゴリー 情報不足 (DD) (要件 b, e) 変更なし

キク科 Asteraceae

[2004年版カテゴリー 情報不足 (DD) : 環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)]

1. 種の解説

多年草。高さ 30 cm 程度。叢生し走出枝はない。茎はよく分枝し有毛。葉は披針形で互生する。茎葉はくさび形で茎を抱かない。花期は 4~6 月。集散花序を出し黄色の頭花をつける。舌状花は 7~10 個。県内では別種とする説があるが、十分な検討資料が得られていない。

2. 分布

日本固有亜種で、本州（中・西部）に分布する。県内では西部に分布する。

3. 生育環境

増水時に水没する溪流の岩上。

4. 生育状況

静岡県植物誌 (1984) には、旧水窪町と旧佐久間町の記録があるが、その後の確認情報はない。

5. 減少の主要因と脅威

ダム建設 (25) や洪水 (55) などによって消滅した可能性も考えられる。

6. 保護対策

ダムや砂防堰堤などの建設時には、その影響を受ける範囲の事前調査を行い、生育が確認できたら保護対策を講じること。

(湯浅保雄)

